

2 緊急地震速報受信機を活用した 防災教育の取組



石巻市立石巻小学校

所在地 石巻市泉町一丁目1番2号

在籍数 256人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、大きく「中央エリア（商店街）」
「山の手エリア」「門脇エリア（平成27年
統合により拡大）に分けられ、「山の手エリ
ア」を除いては東日本大震災での津波被害
を受けている。

学校は日和山の北部低地に位置してお
り、東日本大震災においては床上30cm
程度の被害を受けた。校舎については平成22年度に耐震工事が完了しているため、地
震による倒壊等の危険性は低いといえる。また体育館は平成26年度に完成しており、
備蓄倉庫や太陽光発電等の防災施設・設備が完備されている。さらに令和5年8月には
新しい津波浸水想定が発表され、学校付近は1mから3～5mに上方修正された。



2 令和6年度避難訓練実施計画（※：緊急地震速報訓練実施）

訓練	内 容 等
地震 津波	6/10 ・想定：地震（震度5強）・津波、授業中※① ・1次避難：各教室 2次避難：校庭 3次避難：石巻中学校 6/20 ・想定：地震（震度5強）、休み時間※② ・1次避難：各教室 3/13 ・想定：地震時の緊急時、給食中（放送による1次避難のみ）※③
火災	11/13 ・出火想定場所：家庭科室、授業中 ・避難経路を通り校庭へ避難 ・消防署の方より講評
その他	6/26 ・土砂災害想定避難訓練※④ 9/ 9 ・不審者想定避難訓練 11/ 2 ・石小「みんなであんぜん」の日 石巻市総合防災訓練※⑤ 11/19 ・原子力災害想定避難訓練

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

（緊急地震速報受信機を使った訓練は年5回実施）

① 事前指導等

- ・石巻市作成の防災副読本「未来へつなぐ」を活用し、避難訓練の意義や避難の方法について指導している。



<副読本を使って学習している様子>

- ・各学級において、緊急地震速報が聞こえた際は、慌てず冷静に「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に避難し、ダンゴムシのポーズを取るについて確認した。

② 訓練の取組状況

- ・訓練当日は緊急地震速報受信機を使い、地震発生直前から避難行動に入るようにした。緊急地震速報のアラーム音を流し、揺れが収まるまで机の下に身を隠して避難行動をとった。
- ・各教室には、安否確認や引渡し用児童名簿、携帯ラジオ、予備用電池等をひとまとめにした「非常用持ち出し袋」を備え、担任は避難時にはそれを携帯して避難した。
- ・第1次避難は机の下、第2次避難は校庭、第3次避難は石巻中学校と決めて避難した。実際の災害時でも石巻中学校で引き渡すことを想定している。



＜校長を先頭に避難を行っている様子＞

③ 事後指導

- ・学級ごとに訓練の様子について具体的場面に基に振り返りを行うことで、より実践的な指導を行うことができた。また、年間を通して使うことができる振り返りカードを全校共通で活用し、累積や振り返りを行うことができたようにした。



＜担任が児童を引率している様子＞

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 緊急地震速報の音源は緊迫感があり、それを活用することで、児童は実際の地震発生時を思い浮かべながら真剣に訓練に取り組むことができた。また、緊急地震速報受信機を使用した訓練を毎年数回実施していることもあり、教室以外の場所であっても、児童は混乱することなく、緊急地震速報に反応して身を守ることができるようになってきた。



＜校長の話を聞く様子＞

- 緊急地震速報の放送が流れたら、どんな学習や活動を行っていても、動きを止めて静かにし、放送をしっかりと聞き取る訓練を今後も繰り返し行っていく必要がある。

石巻市立鹿妻小学校

所在地 石巻市鹿妻北二丁目2番1号

在籍数 276人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、湊地区と渡波地区の中間に位置しており、学区内の行政区も二分されている。そのため、防災に対する取組でも、学区内全ての地区において同一歩調で連携することが難しい状況にあった。こうした実態を踏まえ、平成26年10月に「鹿妻小学校地域防災連絡会」を発足させ、学区内の行政区長、町内会長及び本校PTA、市の防災部局の方々を加えることで、学区内の各地区が互いに連携し合いながら、防災・減災に対する取組を推進する機能の整備を進めている。



2 令和6年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震	4/11 避難経路確認避難訓練
地震	6/7 休憩時間避難訓練
原子力	6/7 原子力災害想定・児童引渡し訓練
地震	10/11 休憩時間避難訓練（一次避難のみ）
津波	11/2 石巻市総合防災訓練
地震	2/6～2/10 休憩時間避難訓練（一次避難のみ）
火災	11/12 火災想定避難訓練
その他	9/12 不審者侵入想定避難訓練

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・学校における地震発生時の行動（「上から落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所を探し自ら安全な場所に避難すること、放送や指示をよく聞く等）に関すること。
- ・学校における避難の方法と避難経路の確認をする。
- ・津波が発生する恐れがあるときは、「高い場所へ逃げる」ことを確認する。



静かに机の下にもぐる児童



避難のため、静かに整列する児童

② 訓練の取組状況

- ・緊急地震速報の音を流し、各場所
で第一次避難をする。
- ・担任は人数確認と、報告を本部
にする。
- ・校庭に第二次避難をし、人数確
認完了後、全体会を行った。



教師の指示を聞き、黙って整列し移動する様子

③ 事後指導

- ・振り返りカードを用いて、「おはしも
の約束を守って避難することができ
たか」等について自己評価を行う。
- ・学級全体で成果と課題について発表
し合い、確認する。



静かに外で待機する児童

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 真剣さが増していた。
- 児童が頑張っていた。参加する態度が昨年度よりも立派な姿が見られた。
- 先生方、支援員さん等含め全員ヘルメットを着用できた

- 検索の役割分担が大きい部分があった。
- 教員側の動きをさらに細分化して役割を考えたい。

石巻市立広渚小学校

所在地 石巻市広渚字町北 2 3 3 番地

在籍数 1 7 6 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、旧河南町にある 5 つの地区（町上、町下、柏木、砂押、新田）からなる。学区のほとんどが低地で、定川と青木川が 1 k m 以内の距離にあることから、大雨・洪水による浸水被害が想定される。学区内には高い建物がないため、浸水時は広渚小学校に避難するしかない。東日本大震災では、震度 6 弱だったが、津波による浸水はなかった。



2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 原子力 引渡し	5/2 想定：宮城県沖を震源とする地震が発生し、石巻市内で震度 6 強の揺れを観測。その場で一次避難を行い、身の安全を確保した後、指定した避難経路を通して校庭に二次避難をする。地震により、女川原子力発電所で事故が発生と想定し、講堂へと避難する。 地震・原子力災害想定避難訓練実施後、保護者への引渡しを実施する。
不審者	6/25 想定：授業中に、不審な人物が職員玄関から入り、不審な行動を取っている。凶器となるものは持っていない様子だが、教室に押し入り、児童に危害を加える可能性が十分考えられるため、児童を講堂に避難させる。
洪水	9/10 想定：石巻地区に大雨・洪水警報が発令される。大雨の影響で定川の水が溢れ、校舎の 1 階まで浸水することが予想されるので校舎の 3 階に避難する。
火災	10/18 想定：家庭科室から出火しているのを 6 年担任が発見する。非常ベルを鳴らし、6 年担任が初期消火に当たったが消火できなかったため、全校児童は校庭に避難する。
ショート 避難訓練	7/11、9/3、2/6、3/3 児童への予告をする日としない日、職員にも予告しない日と段階を踏んだ訓練を行う。どの訓練でも事前指導をした後、一次避難の仕方を職員が手分けして児童の様子を監視し、事後指導をする。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・校庭や図書室、下校途中、給食時など教室以外のあらゆる場面を想定した避難行動の取り方を防災副読本を用いて確認することができた。



教室での一次避難の様子

② 訓練の取組状況

- ・業間休みに緊急地震速報の放送を流し、児童は各自で身の安全を確保する行動をとる。
- ・業間休み終了後にどんな場所にいてどんな避難行動を取ったか各学級で確認する。



児童のみの避難の様子（業間）

③ 事後指導

- ・避難訓練後には、本校で活用している振り返りシートを活用し、事後指導をした。
- ・地震発生までのリードタイムを意識させ、その時間でできることも考えさせた。



避難後の全体指導

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- ショート訓練時、高学年が低学年に積極的に声を掛け、避難を誘導したり、安心するよう声掛けをしたりするなど、高学年らしい行動を取る児童の姿が見られた。
- 昨年度同様、事前の職員研修の機会を設け、管理職や防災担当だけではなく、多くの職員が緊急地震速報受信機を扱えるようになった。
- 緊急地震速報受信機を活用したことに関する課題は特になし。

石巻市立中津山第二小学校

所在地 石巻市桃生町中津山字江下 5 7
番地
在籍数 9 7 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は内陸部にあり、東日本大震災では津波の影響こそ受けなかったが、地震による被害は甚大で、多くの家屋が倒壊するなどの被害を受けた。これは、地盤増幅度が 2. 5 2 というこ
ともあり、揺れに弱いことが影響している。また、旧北上川と新北上川に囲まれており、大雨時には、洪水による被害が想定される。校舎の



3 階以上か、徒歩 1 5 分以上の高台が避難場所となる。桃生地区の小・中学校と地区の自治組織、市防災担当部署、消防署等による地域防災連絡協議会を開催し、防災の協力体制づくりを進めている。

2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓 練	内 容 等
地 震 引渡し	5/ 2 想定：午後 2 時 1 0 分に緊急地震速報を受信。1 0 秒後、震度 5 強の地震が発生。その後、保護者へ児童を引き渡すことが決定される。
地 震 (下校時)	6/17 想定：集団下校開始 5 分後に震度 5 強の地震が発生する。児童はその場で身の安全を確保し、一次避難を行う。 ※集団下校の際に実施
地 震 洪 水	6/28 想定：大雨警報が発令する中、昼休みに緊急地震速報を受信。1 0 秒後に震度 6 弱の地震が発生。引渡し準備を行うが、北上川の堤防が決壊、周囲の水位が上昇するおそれがあり、校舎 3 階への垂直避難を行う。
地 震 原子力	9/ 2 想定：5 校時終了後、緊急地震速報を受信。1 0 秒後に震度 6 弱の地震が発生。引渡し準備を行うが、原子力施設に事故が発生する。教室へ屋内退避をし、第 1 次放射線対策を行う。
火 災	10/28 想定：午前 1 0 時 4 2 分に校舎 1 階配膳室から出火し、延焼のおそれがあり、児童は校庭へ避難を行う。
不審者	11/11 想定：5 校時終了間際に、刃物等を所持した不審者が 1 階西側職員玄関より校舎内に侵入する。職員が二手に分かれ、不審者に対応する間に、児童を体育館に避難させる。
地 震 ショートタイム	11/26 想定：昼休みに緊急地震速報を受信。1 0 秒後に震度 6 弱の地震が発生。児童はその場で一次避難を行う。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要【地震・昼休み・予告なし】

想定：担任不在の昼休み（午後1時00分）、緊急地震速報を受信。10秒後に震度6弱の地震が発生。その場で児童が主体的に判断し、各自避難行動（一次避難）をとる。

① 事前指導等

業前の「防災タイム」で石巻市防災副読本「未来へつなぐ」を活用し、地震が起きた際の避難の仕方や、危険が予測される校舎内の場所などを確認する。



校庭での一次避難

② 訓練の取組状況

昼休み中（午後1時00分）に震度6弱の訓練地震が発生。緊急地震速報受信機の警報により、児童は身の安全を確保しながら、一次避難行動をとった。揺れが収まった後、放送や職員の指示を静かに聞くことができた。また、校庭やホールで遊んでいた児童は互いに声を掛け合い、校庭やホールの中心に集まる姿が見られた。



図書室での一次避難

③ 事後指導

放送を使った全体指導の後、各教室に戻り、各自がどのような避難行動をとったか、振り返りを行った。



ホールでの一次避難

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 緊急地震速報受信機を活用した訓練を多く行ってきたので、児童は地震が来るまでの数秒を有効に使い、より安全な場所で身を守る行動をとることができた。
- 各教室に配備されているトランシーバーを使い、停電時を想定した訓練を行っている。教職員の使い方徹底されており、情報伝達が正確に行われている。
- 校庭にいた児童の数名は、高学年児童から避難を促されてから避難行動をとっていた。振り返りの際、すばやくダンゴムシのポーズがとれるよう指導した。

石巻市立鮎川小学校

所在地 石巻市鮎川浜清崎山 1 番地 1

在籍数 8 人

1 学校の概要（学校防災面）

校地は海拔 80 m 以上の高台に位置しており震災時も津波による浸水はない。東北電力女川原子力発電所より約 11 km の距離にあり、原子力災害時には UPZ 避難指示区域となる。学区である鮎川浜は津波浸水想定によると、5 m ～ 10 m の浸水予想となっている。また、通学路が土砂災害警戒区域となっているため、注意が必要である。



2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/26 想定：午前 10 時 45 分、牡鹿半島東方沖を震源とする地震発生。地震の規模は M8、震度 6 強。余震が続くことを考慮し、校庭への避難を行う。その後、津波警報発表。校舎の安全を確認し、校舎へ避難。その後津波警報が解除されるが、避難が長引くことを考慮して清優館へ避難する。清優館で小中合同引渡し訓練を実施した。
地震	11/11 想定：清掃時間中に緊急地震速報受信機から「震度 5 強の地震が発生する。」との放送が流れる。児童は、それぞれが安全な場所を判断し、一次避難のみを行う。
地震	12/11 想定：2 校時終了後の休み時間に緊急地震速報受信機から「震度 5 強の地震が発生する。」との放送が流れる。児童それぞれが安全な場所を判断し、一次避難のみを行う。予告無しで行い、校長・教頭以外は発生時間も分からない状況で訓練を行う。
地震 原子力	1/16 想定：午前 10 時 10 分、震度 6 強の地震発生。その後、東北電力女川原子力発電所で事故が発生したという連絡が入り、建物内に避難する。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・普段から「自分の命は自分で守る」といった意識をもつとともに、いざというときに自分の判断で具体的な行動が取れるようにするため、児童携帯防災マニュアルを作成する。

② 訓練の取組状況

- ・地震想定・引渡し訓練では、緊急地震速報受信機を作動させ、警報音を鳴らしたところ、児童は速やかに第1次避難を行うことができた。その後、余震が続くという想定により校庭へ2次避難を行った。焦らず慎重に避難する様子が見られた。津波警報が発表された想定で校舎3階に3次避難を行い、その後、津波警報が解除されるが、避難が長引くことが予想されるという想定で、より設備の整った清優館へ4次避難を行った。
- ・清優館では、牡鹿中学校と合同で引渡し訓練を行った。誰に引き渡したのか、どこに避難するのかを名簿とともに確認しながらスムーズに引渡しを行うことができた。
- ・清掃時間中の地震想定避難訓練では、緊急地震速報受信機の警報音が鳴ると同時に、清掃場所の机の下に隠れたり、ダンゴムシのポーズで頭を守ったりして、素早く身を守ることができていた。



引き渡し訓練

③ 事後指導

- ・地震想定・引渡し訓練では、清優館への第4次避難が終了したところで、警報音の後の行動、校庭や校舎内、清優館への移動について、校長の全体講評を聞き、振り返りを行った。
- ・清掃時間中の地震想定では、児童が取った避難行動の妥当性を「4つの『ない』」に当てはまっていたのかという視点で確認を行った。



「4つの『ない』」

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 児童は緊急地震速報受信機の放送が流れると同時に、身を守ることができた。
- 引渡し訓練では、教員、児童、保護者がしっかりと流れを確認することができた。
- 今回は小中連携の引渡し訓練を行ったが、次回は保育所や牡鹿総合支所も参加した合同引渡し訓練ができるとよい。

石巻市立住吉中学校

所在地 石巻市東中里三丁目3番1号

在籍数 194人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、市の北東部に位置し、旧北上川の懷に抱かれた平坦地である。また、学区の大部分は低地にあり、地形図からは、本校は、氾濫平野にある。

東日本大震災により地域のほとんどが冠水し、被害を受けた地域である。当時避難所であった本校には、最大2,100名の避難者が避難していた。

地域や保護者は教育熱心な方が多く、学校に対しても協力的である。平成30年3月に本校は日本セーフティプロモーションスクール（SPS）協議会より、教職員、生徒、保護者、地域の人々が協働して学校安全推進の取組を展開するSPS認証校に認定された。



2 令和6年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/15 想定：5校時の授業中に宮城県沖で震度6強の大地震が発生し、緊急地震速報が流れる。第一次避難から即、大津波警報が発表された場合を想定し、すぐに校舎最上階へ3次避難をとる流れとして実施。なお、地震により停電し、各階教材室にあるトランシーバーと拡声器で指示を行う訓練とした。その後、大津波警報が解除されて車による引渡しが必要となり、生徒を保護者に引き渡す時の流れと動き（教員・生徒・保護者）を確認した。 6/3 想定：緊急地震速報が流れた際の一次避難の訓練として実施した（校庭には避難しない）。また、今回の避難訓練では、「本震の後、余震が何度か起きる」とこと、「複数のけが人が出る」ことを重点ポイントとして取り入れた。余震の回数、どんなけが人が出るかは伝えずに行い、より実践的で、実効性の高い訓練とした。
火災	11/22 想定：授業中に震度5弱以上の地震が発生し、緊急地震速報が流れる。その際、1階東側ボイラー室から火災が発生し、校庭へ緊急避難。また、消防署員による講話と初期消火訓練も実施。
その他	7/10 想定：放課後の部活動中、朝から降り続いた大雨により「北上川の堤防が決壊のおそれあり」と発表される。生徒の安全を考え、校舎4階へ避難。また、担任・顧問に周知せず生徒数名を「行方不明生徒」として集団から取り出し、安否確認や検索が円滑に行われるか訓練した。 1/14 想定：宮城県沖で震度6弱以上の地震が発生し、炉心損傷により原子力発電所から放射性物質が放出。防災行政無線及び緊急速報メールで連絡を受け、全校放送で屋内退避の指示。なお、全校及び教職員（管理職を除く）には事前に伝えずに実施。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

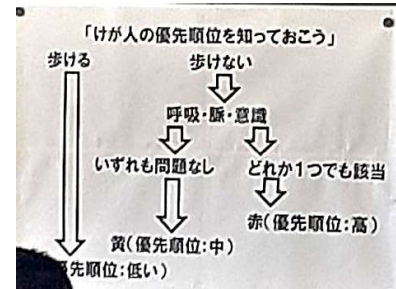
- ・4/15 の5校時のはじめに全校放送で安全担当が1年間の防災学習のオリエンテーションを行い、そのねらいである「自他の命を守る力を身に付けること」への理解を深めさせた。また、タブレット（生活のしおり）にある安全・防災資料を活用しながら、避難訓練の避難経路等の事前指導を行った。



防災学習オリエンテーション

② 訓練の取組状況

- ・6/3 の6校時に行った緊急地震速報による避難訓練は、より実践的な訓練にするために、大きな揺れを伴う地震が立て続けに起こるという想定の下、緊急地震速報の報知音の度に、机の下に入る訓練をした（余震の回数を生徒には伝えないで実施）。また、骨折する生徒・膝を擦りむく生徒・意識を失う生徒等が出たという設定で訓練を実施。教員と生徒が協力しながら、優先順位のフローチャートに従ってけが人の対応をし、必要に応じて本部に応援を要請しながら一次避難を行った。



けが人の優先順位フローチャート

③ 事後指導

- ・避難訓練終了後、クラスごとに担任が事後指導を行った。生徒の振り返りは次のとおり（一部抜粋）。「けが人の対応や優先順位の事が理解できた。本番では、一刻も早くけが人の優先順位を判断することが大切だと思った。」「余震は何回も来るから常に警戒することが大切だと感じた。今回の訓練を生かして、その度にしっかりと対応していきたい。」

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

○これまでの避難訓練は「黙らせる」指導が中心で、生徒も黙っていることが当たり前という感覚であったため、コミュニケーションをとりながら共に力を合わせて助け合うという避難に慣れていかなければならないと感じた。今後はさらに教職員と生徒が協力して命を守り抜く、主体的・対話的で深い学びのある訓練を行うとともに、生徒を管理する訓練から、生徒一人一人が自分のすべきことを絶えず考え続ける訓練へとシフトしていく必要がある。

- 別室対応の生徒（不登校生徒等）が今後さらに増えていくと思われる。生徒の命を守るためにも、生徒の出席状況確認や居場所の把握を確実に行うことが大切である。

石巻市立北上中学校

所在地 石巻市北上町十三浜字小田 9 3 番地 1
在籍数 48 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、旧北上町全域で東西に長く、通学範囲が広く、スクールバス通学の生徒は約 3 割、その他は保護者送迎が多い。そのため交通事故に対する注意が必要である。

校舎は高台にあるが、通学路が北上川や海岸線沿いの海拔の低い場所が多いので、津波等に対する意識を高めていく。



2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震・津波	6 / 4 想定：震度 6 強 マグニチュード 9.0、宮城県沖
引き渡し	6 / 28 想定：飯野川地区のコンビニエンスストアで強盗事件が発生した。犯人は逃走中であり、引渡しの措置をとることとなった。 ※北上小学校、北上こども園、相川保育所と合同訓練を行った。
不審者	7 / 11 想定：校舎内に侵入してきた、興奮状態になっている不審者へ対応した。 ※河北警察署の協力
火災	10 / 25 想定：理科室から出火 ※初期消火と通報
市総合防災訓練	11 / 2 想定：地震、大津波発生時の避難 ※地域の方から東日本大震災当時の話を聞き、各学年で新聞を作ってまとめ、地域の方へ向けて発表を行った。 ※防災食の試食
原子力	11 / 14 想定：地震に伴い、女川原子力発電所で異常が発生。
その他	月に 1 回、シェイクアウト訓練を実施。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・地震発生時には、緊急地震速報が流れることや一次避難方法（机の下に隠れて頭部を守る、ダンゴムシのポーズ、ヘルメットの着用など）を指導した。
- ・揺れが収まったら、状況に応じた避難行動をとることを指示した。

② 訓練の取組状況

- ・緊急地震速報受信機を使って、職員室にいる教職員が発報した。
- ・生徒は教室で一次避難を行う。職員室内の教職員も一次避難を行う。
- ・揺れが収まったら、校長（教頭）の指示で、校舎内外の被害状況を確認する。
- ・被害状況に応じた避難場所を決定し、教職員並びに生徒に伝える。
- ・安全を確認しながら、二次避難を行う。原子力災害の二次避難場所は、視聴覚室とした。
- ・職員室にいる教職員は、非常持出袋を持つ。
- ・二次避難場所で、人数確認と報告を行う。
- ・石巻市総合防災訓練内で行う防災発表に向けて、地域の方から東日本大震災当時の話を聞き、新聞作成を行った。自分たちの住んでいる地区での出来事について興味を持って聞くことができた。
- ・毎月1回、シェイクアウト訓練を行い、地震発生時における避難方法を確認するとともに、災害時に自己判断で自分の生命を守ろうとする意識を高めた。



地震避難訓練時の様子



毎月1回実施のシェイクアウト訓練の様子

③ 事後指導

- ・校長（教頭）からの講評後、教室で石巻市防災教育副読本「未来へつなぐ」を活用したり、振り返り用紙に記入したりしながら、各自振り返りを行った。

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

○いっどこにいても迅速な避難行動をとることについて考えさせることができる取組となった。

●緊急地震速報受信機の使い方について、今後職員研修等で動作確認をする必要がある。



石巻市総合防災訓練での防災発表の様子

石巻市立住吉小学校

所在地 石巻市住吉町二丁目4番27号

在籍数 99人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、石巻市の中心部に位置し、旧北上川沿いの氾濫平野にある。近くの中里バイパス周辺は旧河道が伸びている。

校地は海拔0.7mの平地にあり、周囲に山や崖等もないので、土砂災害等の危険はないが、川から50mほどしか離れておらず、浸水被害を受けやすい場所と言える。



東日本大震災では、児童職員ともに、全員が校舎3階に避難し、無事だった。北上川からの汚泥を伴う水が押し寄せ、校舎1階の1mほどが浸水して1階は使用不能になった。一時は300人を超える避難者が、校舎3階で過ごすことになった。ボランティアの協力等で1階が復旧した後、避難所は1階図工室に移動し、翌年度の6月まで避難所が開設された。

近年の状況及び石巻市ハザードマップ等から以下のハザードが想定される。

- ・地震の際には、液状化の危険性がある。
- ・津波の際には、学区の大部分1m以上、中里バイパス南側は3～5mの浸水が予想される。
- ・台風や集中豪雨の際には、学区の大部分が0.5m以上、中里バイパスの南側は3～5mの浸水が予想される。通学路のうち、元倉ガードは強い雨が降るとよく冠水する。
- ・女川原子力発電所から学校は、直線距離で約9kmの地点で、UPZ圏内である。
- ・令和4年5月宮城県より発表された津波浸水想定では、学校の最大浸水深が1m以上3m未満である。

2 令和6年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/16 想定：授業中に震度5強以上の地震が発生し、校舎内の窓ガラスや壁の一部が破損した。安全確認により大きな損傷はなく、津波の襲来が予想されたため、3階視聴覚室へ避難することとする。 内容：1次避難：その場での避難行動 2次避難：3階視聴覚室へ
	9/3 想定：業間時に受信機が緊急地震速報を受け警報が作動する。次いで震度5強以上の地震が発生し、児童は自らの判断で第1次避難をする。その後、津波の襲来が予想されたため3階視聴覚室へ避難することとする。 内容：1次避難：その場での避難行動 2次避難：3階視聴覚室へ

石巻市立貞山小学校

所在地 石巻市貞山五丁目3番1号

在籍数 170人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、洪水ハザードマップによると、予想浸水深は0.5～3mであり、風水害発生時は、学区のほとんどが冠水することが予想される。

津波ハザードマップによると、予想浸水深は、0.5～3mであり、学区内の全ての地域が浸水域に入る。

浸水の継続時間は想定最大規模で1日～3日未満となっている。



2 令和6年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/16 想定：三陸沖M9.0、石巻市内最大震度6強、地震直後に東北地方太平洋沿岸に大津波警報発表、電気・ガス・水道等ライフライン機能停止
	9/2 想定：三陸沖M9.0、石巻市内最大震度6強、地震直後に電気・ガス・水道等ライフライン機能停止
	11/2 想定：東北地方太平洋沖M9.0、石巻市内最大震度6強、地震直後に東北地方太平洋沿岸に大津波警報発表、住宅倒壊、道路の陥没、電気・ガス・水道等のライフライン機能停止
火災	11/19 3階家庭科室より出火（火の不始末のため） 天候晴れ、北西の風、風力5
その他	6/14 不審者・引き渡し訓練
	7/9 洪水・浸水避難訓練（業前）
	2/6 原子力災害避難訓練（業前）

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・ 避難訓練の意義とめあてについて確認する。
- ・ 事前に日時を知らせておく。
- ・ 地震が起きたら安全な場所に避難する。

（落ちてこない、倒れてこない、移動してこない）

② 訓練の取組状況

- ・ 緊急地震速報受信機で地震発生の予報を知らせる。
- ・ 「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所で自分の身を守らせる。
- ・ 防災頭巾、帽子、上着等を使って頭部を保護させる。
- ・ 緊急校内放送により地震の情報を伝えるが、途中で放送が使えなくなる。
- ・ 経路の安全確認を行った後、拡声器で各階に校庭への二次避難を指示する。
- ・ 学級の人数を確認し、異常の有無を教頭に報告する。
- ・ 本部の情報収集により大津波警報が発表されたことを受け、3階までの避難経路を確認する。
- ・ 大津波警報の発表と3階への避難指示が出る。3階の避難場所に学年ごとに避難する。
- ・ 人員確認と報告を校長に行う。
- ・ 放送により避難解除を知らせる。
- ・ 大津波警報対応の訓練を終了し、避難所である石巻工業高校への避難訓練を行う。
- ・ 校庭に6年生と1年生、5年生と2年生、4年生と3年生が隣り合って並び、上学年が下学年の手を取って避難する。



教室での一次避難の様子



工業高校への避難の様子



工業高校への避難の様子

③ 事後指導

- ・ 避難訓練を振り返り、時と場に応じた避難場所と避難経路を確認する。
- ・ 避難行動についての振り返りを行う。
- ・ 「石巻市防災教育副読本」を活用。

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 緊急地震速報の音に慣れ、落ち着いて身を守る行動ができるようになってきた。
- 3次避難の際昇降口が施錠されていて入れなかった為、特支学級の入り口から避難した。訓練にはなったが、避難経路の確認者が開けるなど決めておく。
- 使用する昇降口を統一したほうがよい。
- 持ち出しの物品が多く管理職や養護教諭等に対応しきれないものがあるので役割の見直しが必要。→カードを作る等して役割を可視化し誰でも動けるようにする。
- 3年に一度程度で実際に工業高校まで歩いてみる訓練も必要なのではないか。

石巻市立鹿又小学校

所在地 石巻市鹿又字矢袋屋敷合 3 1 番地

在籍数 2 9 3 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、石巻市河南地区東部に位置し、北側と東側に旧北上川が流れている。国道 4 5 号線と三陸自動車道が学区の東側を縦断している。東日本大震災では、校舎や備品等の一部破損があったものの津波による被害はなく、避難所として沿岸部からの人々の受入れを行った。また、震災以降、学区西側と南側を中心に宅地開発がなされ、児童数は増加している。



学校単独の避難訓練を月に 1 回程度実施しているほか、鹿又保育所と河南東中学区（河南東中・須江小・和渕小）と連携して引渡し訓練を実施している。災害に備え、保護者・地域・関係諸機関との一層の連携づくりに取り組んでいる。

2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/17 想定：授業中に震度 5 強の地震発生 ・机の下に一次避難 5/10 想定：授業中に震度 5 強の地震発生 ・机の下に一次避難（対応行動）。校庭に二次避難。その後引渡し訓練 9/11 想定：休み時間に震度 5 強の地震発生 ・各場所（教室、廊下、校庭等）において一次避難 2/ 6 想定：清掃中に震度 5 強の地震発生 ・各場所（教室、廊下等）に一次避難
火災	11/12 想定：授業中に火災発生 ・ 2 階図書室より出火、校庭に避難
その他	5/28 想定：北上川堤防決壊 ・北上川堤防が決壊し校舎 3 階に避難 6/28 想定：不審者が校舎内に侵入のおそれ ・各教室に避難 11/21 想定：原子力災害が発生 ・屋内（校舎内）退避 11/26 想定：不審者が校舎内に侵入のおそれ ・各教室に避難

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・ 避難訓練の意義、目当てを周知する。
- ・ 緊急地震速報が流れたときの対応行動を指導する。
- ・ 防災頭巾をかぶることを指導する。
- ・ 「お・は・し・も」を守って行動することを指導する。
- ・ 2回目以降は、前回の反省を踏まえて指導する。



【対応行動 校庭での避難の様子】

② 訓練の取組状況

- ・ 授業時間、休み時間、清掃時間に緊急地震速報を流した。
- ・ 速報の警戒音が流れると、児童は動きを止め放送に耳を傾け、すぐに対応行動をとった。
- ・ 自分の教室にいた児童は、防災頭巾を手に取り、机の下に潜り一次避難した。
- ・ 教室以外で対応行動を取る際は、その場に合わせた避難行動を取っていた。



【対応行動 体育館での避難の様子】

③ 事後指導

- ・ 各学級で避難の様子について自己評価をするとともに、振り返りを行った。
- ・ 実施した想定以外の避難についても学年に応じ、具体的に考えさせた。
- ・ 学校外の場所についても、具体的な場面を想起させて、地震が発生した場合の危険回避行動を考えさせた。



【対応行動 教室での避難の様子】

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 緊急地震速報が流れると迅速かつ安全に、落ち着いて行動することができた。
- 様々な場面を想定して訓練をすることで、児童だけでなく教員にとっても意味のある訓練ができた。
- 緊急地震速報受信機を活用した訓練と併せて、学校外での避難行動を指導することにより災害時の避難の理解が深まった。
- 二次避難場所、三次避難場所（石巻北高等学校）、避難経路について様々な想定で実施していく。
- 職員側も多様な場面に対応できるよう、更に研修の機会を設けていく。

石巻市立大原小学校

所在地 石巻市大原浜大光寺 1 番地

在籍数 12 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、牡鹿半島の先端部を占める旧牡鹿町の南西部に位置している。学校は、海までの距離が近く、海底が震源となる震度の大きい地震では津波襲来のおそれがある。東日本大震災では、学校の西側 10 m まで浸水している。大雨が降ると、背後の大草山一帯は土砂災害危険区域となる。県道石巻鮎川線は強い雨で冠水することが多い。また、女川原子力発電所からは、7 km で 30 km 圏内であり、準 UPZ（緊急時防護措置を準備する区域）となっている。



2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/26 想定：震度 6 弱の地震が発生し、放送機器が使えない。その後、大津波警報が発令されたため、第三次避難場所に避難する。その後、津波に関する警報等が解除され、保護者への引渡しを実施する。 内容：①第一次避難（教室） ②第二次避難（校庭防災倉庫前） ③第三次避難（学校東側大草山斜面空き地） ④保護者への引渡し 5/30 想定：震度 5 強の地震が発生し、今後も大きな余震が続くおそれがある。 内容：①緊急地震速報システムによる放送 ②第一次避難（休み時間にいた場所で） ③第二次避難（校庭防災倉庫前）
火災	11/5 想定：2 時間目が始まってすぐ、2 階たんぼぼ教室から出火したため非常階段を使用して校庭に避難する。校長不在を想定。 内容：①非常ベルを鳴らす。 ②避難指示を聞く。 ③校庭に避難をする。 ④校庭に整列する。 ⑤煙道体験をする。
その他	6/26 【防犯訓練】 想定：不審者が昇降口から侵入したため、体育館に避難する。 内容：不審者に職員が対処する。児童は、放送の指示により、体育館に避難する。警察官が不審者役となり実施。 9/11 【土砂災害想定】 想定：大雨により土砂災害の危険が想定されたため、給分浜集会所へ避難し、引渡しを行う（実際に引渡しは行わない） 内容：①職員打合せ（避難及び引渡し決定） ②避難開始 ③避難完了及び引渡し準備 11/2 【石巻市総合防災訓練】 想定：三陸沖を震源とする最大震度 6 強の地震が発生し、大津波警報「巨大」が発表された。※シェイクアウト訓練までの想定 内容：①シェイクアウト訓練（各家庭） ②防災倉庫点検 ③炊き出し訓練 12/11 【原子力災害の対応】 想定：震度 6 弱の地震が発生し、校内は停電していることを想定。

	引渡しを実施していたが、施設敷地緊急事態（SE）発表のため、引渡しを中断し広域避難に備える。 内容：①校長講話 ②第一次避難（教室） ③第二次避難（校庭防災倉庫前） ④保護者引渡し ⑤引渡し中断及び広域避難準備 12/17【シェイクアウト訓練（児童・教員予告なし）】 想定：昼休みに震度6弱の地震が発生。緊急地震速報受信機より、大きい地震が到来することが放送される。 内容：①地震発生 ②第一次避難（昼休みにいた場所で）③安全確認 ④事後指導（放送によるフィードバック） 2/18【シェイクアウト訓練（児童・教員予告なし、けが人想定）】 想定：朝の会を終え、学級タイムの時間中に震度6弱の地震が発生。緊急地震速報受信機より、大きい地震の到来が放送される。また、職員室へ健康観察簿を持っていこうとした児童1名が階段から転落し、足首を捻挫する。 内容：①地震発生 ②第一次避難（教室等）③安全確認 ④けが人の救護 ⑤事後指導（放送によるフィードバック）
--	--

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・各教室に「お・し・か・も・ち」のやくそく（「押さない」「しゃべらない」「駆けない」「戻らない」「近づかない」）を掲示し、常に確認している。
- ・防災クイズで適切な避難行動について、定期的に確認している。



「おしかもち」の校内掲示

② 訓練の取組状況

- ・予告なしのシェイクアウト訓練を実施し、緊急地震速報受信機で、震度階級、到達秒数を放送する。
- ・児童は、放送を聞くと直ちにそれぞれの場所に応じた適切な避難行動をとっていた。
- ・教職員は、声を掛け合って臨機応変に児童と避難経路の安全確認をしていた。

③ 事後指導

- ・放送にて避難訓練のフィードバックを行った。

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

○児童は教職員が近くにいなくても適切な避難行動がとれていた。

○教職員にも予告しなかったが、臨機応変に避難指示、安全の確保、校舎内の安全確認ができていた。

●少ない教職員数でも迅速に安全確認・情報共有ができるようなシステムづくり

（安全確認箇所をA・B・Cに分け、本部で担当教員を割り振る等）

●授業中や休み時間以外にも業前や放課後に実施してみる必要がある。



緊急地震速報受信機
「地震の見張り番」

石巻市立万石浦中学校

所在地 石巻市流留字七勺2 1 番地

在籍数 1 5 2 人

1 学校の概要（学校防災面）

本学区は、万石浦に面している地区と太平洋に面している地区に分かれており、東日本大震災では、太平洋に面している地区では大きな被害を受けた。津波の被害を受けなかった地区でも、震災後しばらくの間、冠水の被害を受けている。校舎には津波の被害がなかったため、避難所として震災直後は1,000人の避難者が生活していた。学校再開後は10月まで体育館が避難所となった。



このような経験を踏まえ、今年度も石巻市総合防災訓練の際に、生徒と一緒に保護者も二次避難を実施し、地域防災連絡会と連携し避難所開設訓練を行った。

2 令和6年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/17 想定：地震・津波（震度6強・大津波警報） 授業中、学級担任、停電、校舎3階への二次避難、津波発生時の避難生活場所の確認と移動 5/28 想定：地震・津波（震度5強・津波を想定） 休日の部活動中（訓練は放課後）、部活動顧問、管理職不在、部活動毎に3階の所定の教室に二次避難 7/ 9 想定：地震（震度6強・津波なし） 休み時間、予告なし、二次避難なし 9/10 想定：地震・津波（震度6強・大津波警報） 授業中、教科担任、停電、校舎3階への二次避難 11/ 2 想定：地震・津波（震度6強・大津波警報「石巻市総合防災訓練」） 家庭でのシェイクアウト訓練、避難所へ二次避難、避難所設営訓練（1、2年）、救急救命訓練（3年）引渡し訓練
火災	10/11 想定：火災（3階理科室より出火） 授業中（担任）、校庭への二次避難 石巻東消防署の方からの指導、消火訓練
その他	11/25 想定：不審者（玄関から2、3階教室へ侵入） 授業中（担任）、バリケードづくり、防御態勢の確認 2/18 想定：原子力（女川原子力発電所で事故発生、屋内退避の指示）朝の会中（担任）

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・石巻市教育委員会作成の防災副読本「未来へつなぐ」を使い、防災への理解を図った。その際に、一次避難・二次避難・三次避難の場所や避難方法について確認をするとともに、緊急地震速報の仕組みと活用方法について生徒に理解させた。
- ・震度5以上の地震発生の際に緊急地震速報が放送されることや、その場合における教室、廊下、校庭における退避行動について学級担任が指導した。

② 訓練の取組状況

- ・年度当初の計画通り、授業中（学級担任、教科担任）、休憩時間中、部活動中、停電時、管理職不在時、予告なしなど、様々な場面を想定して計4回訓練を実施した。
- ・訓練の想定に応じて二次避難先や避難経路などを変えたが、生徒も職員も臨機応変に対応することができていた。
- ・二次避難の際には、校長から全体の講評を行った。私語もなく、真剣に参加している様子が見られた。

③ 事後指導

- ・「落ちてこない」「倒れてこない」場所など、事前指導で確認したことを踏まえて、教室以外の教室、校外、自宅にいる場合など、あらゆる場面を想定して、自らの命を守る方法等について考える場面を設けた。
- ・タブレットを活用し、振り返りアンケートを実施したり、地震災害に対する備えや避難の様子を確認したりしながら、避難訓練の反省・自己評価を行った。
- ・緊急地震速報の警報音が鳴った際の行動について、いろいろな場面を想定しながら、各学級で考えを共有した。



タブレットを活用した振り返り

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 緊急地震速報に対し、素早く反応し対応することができている生徒が多かった。
- 校舎3階への二次避難もスムーズに行うことができた。
- 昨年度の反省を踏まえ、予告なしの訓練を実施することができた。生徒も職員も臨機応変に対応する姿が見られた。
- 詳細な計画のもと避難訓練を実施しているため、職員が決まった動きになってしまっている。計画を見直し、どのような状況においても適切な行動がとれるような内容にしていきたい。
- 生徒が東日本大震災を経験していない世代であることを踏まえ、震災当時の様子について伝える機会を設け、生徒の防災意識を更に高めていきたい。

石巻市立飯野川中学校

所在地 石巻市相野谷字旧会所前 3 4 番地

在籍数 7 3 人

1 学校の概要（学校防災面）

校地は、平地にあり、標高は約 1. 8 mである。校舎北側は崖になっている。近年、土砂災害は発生していないが、降水量が多いことと地震が重なった場合は、警戒が必要である。学校および学区の大部分は低地にある。学区の北側には山地があり、学区の南部は北上川（追波川）が流れている。



東日本大震災では、学区の一部で地震による地割れ、土地の隆起があった。また、川を遡上する津波の影響で学校周辺の住宅が床下浸水したところもあった。学校は、地震の影響で校舎の一部に亀裂が入ったところもあったが、建物に大きな被害はなかった。大震災当日から 8 月上旬まで避難所となり、最大で 4 0 0 名が避難した。

2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/12 想定：宮城県沖を震源とする大規模な地震が発生した。この地震のため各地で人的、物的被害が発生し、一方で沿岸部には大津波警報が発表された。 5/29 想定：宮城県沖を震源とする大規模な地震が発生し、津波警報が発表された。その後、警報が解除されたため、生徒を保護者への引渡しを指示した。 11/ 2 想定：宮城県沖を震源とする大規模地震が発生した。（シェイクアウト訓練）
火災	11/ 1 想定：6 校時始業後、緊急地震速報受信機が鳴り、宮城県沿岸を震源とする震度 6 強の地震が発生する。合わせて停電も発生。数分後、地震は収束するが、校舎 1 階家庭科室より出火した。
その他	5/15 想定：早朝から降り続けている豪雨が原因で、「土砂災害特別警戒情報」が発表された。（ショート訓練） 8/28 想定：早朝から降り続けている豪雨が原因で、北上川が氾濫するおそれがあり、「避難指示」が発令された。避難場所への徒歩での移動が危険と判断したため、校舎の 3 階以上に緊急避難を行う。（ショート訓練） 10/16 想定：緊急地震速報が鳴り、震度 6 強の地震が発生する。その後、津波の心配はないと連絡が入り、保護者への引渡しを開始する。女川原子力発電所で全電源が喪失し、避難指示が発令され、残っている生徒とともに避難搬送用バスで避難退避時検査等場所に向かう。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・「自分の命は自分で守ること」を意識させ、そのための避難行動を確認した。
- ・防災教育副読本「未来へつなぐ」を活用して、各災害の理解を図った。
- ・原子力防災シミュレーション「エネ百科」のサイトを活用し、原子力防災への理解を深めた。



一次避難している様子

② 訓練の取組状況

- ・地震・津波、地震・火災、地震・原子力事故対応の避難訓練の際に、緊急地震速報機を活用した。
- ・地震により通行不可の場所や停電、火災発生等、様々な想定を組み込んだ。トランシーバーを活用して連携し、速やかに避難することができた。
- ・学級担任だけではなく、教科担任が教室にいる想定で実施し、本部での教職員の役割を確認することができた。

③ 事後指導

- ・防災教育副読本に振り返りを記入し、学級内で発表し合い、共有を行った。
- ・Google フォームを活用して、生徒、教員の振り返りを行い、次の訓練に生かした。



体育館へ避難している様子

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 緊急地震速報受信機を活用したことで、速報の放送が鳴ったら速やかに自分の身を守る姿勢をとることができた。本番に近い訓練となり、緊張感を持って実施することができた。
- 実際に緊急地震速報受信機が鳴らない程度の地震が発生した際に、教師からの指示の前に、自ら進んで自分の身を守る姿勢をとることができた。
- 生徒の搜索担当の教員は、声を出しながら搜索することを徹底していきたい。
- より実際の災害に近い想定で行えるように、生徒へ事前の予告なしの訓練を行ったり、訓練を実施する時間帯を変えてみたりすることを検討していきたい。

石巻市立湊小学校

所在地 石巻市吉野町一丁目3番21号

在籍数 137人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は石巻市東南に位置しており、旧北上川が太平洋に注ぐ河口の東岸一体に広がっている。北東には牧山（標高218m）を中心とする山稜が連なり、平地は山稜の南側に東西に広がり、校舎は学区内平地の西側、海拔3mに位置している。



平成23年の東日本大震災の大津波で湊地区一帯は壊滅的な被害を受けた。本校も校舎1階天井まで浸水した。津波被害により、学校管理下外で児童4名が亡くなっている。当日から避難所となり、多くの方が避難生活をしていた。（最大避難者数：約1,400名）

学区にある多くの家庭は、家屋や職場、親族や知人が被災した経験をもつ。学区内に災害復興住宅があり、そこから通学している児童も多い。

2 令和6年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/10 大津波警報が発表され、校庭から校舎屋上に避難することを想定し、非常階段を上る訓練を学級ごとに行った。 4/25 大津波警報が発表され、津波到達予想時刻を考慮して屋上への垂直避難を行った。 11/ 2 石巻市総合防災訓練では、児童が在宅時に震度6強の地震が発生し、その後大津波警報が発表されたため家族と決めた避難場所に避難した。
火災	11/25 校舎西側理科室から出火、児童及び教職員は東側階段から校庭南側に避難した。
その他	5/23 大雨・浸水・冠水想定垂直避難訓練、合同引渡し訓練、7/9 不審者想定避難訓練、7/10 雷想定避難訓練、9/17 竜巻想定避難訓練、11/5 原子力防災訓練

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- 緊急地震速報受信機の訓練機能の使い方について説明を行った。（職員対象）
- 緊急地震速報受信機等の放送と教師の指示をしっかりと聞くことや、周りの状況を確認し、



「操作説明」

物の落下、転倒、移動から身を守ることを発達段階に応じて指導した。

- ・ 非常階段使用体験や避難経路の確認を各学級で行った。

② 訓練の取組状況

- ・ 緊急地震速報受信機の訓練機能を使用し、校舎内の児童と教職員に地震発生を伝えることができた。
- ・ 児童は受信機からの情報を落ち着いて聞き、一次避難として机の下で頭部を守る姿勢を取ることができた。



「非常階段から屋上へ避難」

③ 事後指導

- ・ 各学級で放送や指示をよく聞いて、自分の命を守る行動をとることができたか、発達段階に応じて振り返りを行った。



「緊急地震速報受信機の音声を聞き避難する1年生」

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 緊急地震速報受信機の訓練機能を使用し、実際の地震発生時に流れる警報音を使った緊張感のある避難訓練を実施することができた。
- 児童は緊急地震速報受信機や教師の指示を聞いて、迅速に避難することができた。
- 緊急地震速報受信機の使い方がワンパターンになってしまったため、地震到達予想時間の設定を変更したり、余震発生を想定した訓練に使用したりするなど工夫が必要だった。
- 学級での授業中に地震が発生するとは限らないので、全校集会時や業前の職員がそろっていない状況下等でも活用していき、安全確保や安否確認をどのように行うべきか教職員と確認をしていきたい。

石巻市立渡波小学校

所在地 石巻市渡波町一丁目５番２２号

在籍数 ３１１人

１ 学校の概要（学校防災面）

学区は、石巻市の東端、万石浦に臨む牡鹿半島の基部に位置している。東日本大震災では、国道３９８号線から南側の地区で甚大な被害を受けた。また、津波により校舎１階が浸水した。この影響により、平成２３年度は、貞山小と山下中に間借りしての校舎で授業を再開。同年２学期から稲井中敷地内での仮設校舎での生活を経て、平成２６年４月より本校舎にて学校再開を果たすことができた。



今年度は、緊急地震速報受信機活用訓練を年間４回実施する計画とした。また、授業時間以外の避難訓練や訓練予告なしの避難訓練を設定した。

２ 令和６年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	6/7 11/2 想定：授業中に震度６強の地震が発生し、大津波警報が発表された。第一次避難は各教室、第二次避難は屋上として避難する。
火災	4/17 想定：業前に２階理科室から出火した。校庭に避難する。 11/11 想定：授業中に２階家庭科室から出火した。校庭に避難する。
その他	6/21 不審者対応引渡し訓練 想定：授業中に不審者が校舎内に侵入した。第一次避難を各教室とし、不審者の身柄確保後、保護者への引渡しを行う。 5/7 9/5 2/13 緊急地震速報受信機活用避難訓練 想定：５月は業間、９月は昼休み、２月は清掃時間に震度５強の地震が発生した。それぞれ児童がいる場所で避難行動を取る訓練を行う。 11/22 原子力災害想定避難訓練 想定：原子力緊急事態となり、屋内避難指示が発令された。それぞれ教室内に避難する。

３ 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(１) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・地鳴り（初期微動）や緊急地震速報が聞こえたら、「落ちてこない、倒れてこない、

移動してこない」場所に落ち着いて速やかに避難することを指導する。また、宮城県や石巻市の防災教育副読本を活用する。

- ・教室にいるときだけでなく、廊下や階段、特別教室、講堂、校庭など、校地内各所での避難の仕方について指導する。
- ・放送や教師の指示をしっかりと聞くことを指導する。

② 訓練の取組状況

- ・休み時間や清掃時間中の地震発生想定での避難訓練において緊急地震速報受信機を活用した。速報音が鳴ると、速やかに机の下などに避難し、身の安全を確保する行動ができていた。
- ・授業中に地震と津波発生想定で訓練を行った。今年度は、屋内の階段が使用できない想定として、初めて外階段から屋上への避難を行った。教師の指示をしっかりと聞いて、「お、は、し、も」の約束を守って素早く避難行動をすることができた。
- ・トランシーバーを使って、素早い情報伝達や情報共有を行った。



休み時間中の避難訓練



屋上への避難訓練

③ 事後指導

- ・緊急地震速報音が鳴った際に「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所で速やかに自分の身を守ることができたか確認した。
- ・宮城県や石巻市の防災副読本を活用しながら自己の避難行動について振り返らせたり、自他の命を守るための訓練に真剣に取り組む大切さを再確認したりして防災意識を高めた。
- ・地域の災害リスクである津波から命を守る行動について考えさせた。

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 本受信機を使った避難訓練を繰り返し行うことで、児童の防災意識や避難行動のスキルを高めることができた。
- 「防災学習の日」(毎月11日前後の日に防災に関する指導を業前に実施)を設定し、その中で避難訓練の事前指導を行えるようにした。また、防災副読本を活用し、各学年の実態に応じた指導をすることができた。事後指導でも防災副読本を活用し、振り返りを行うことができた。
- トランシーバーを効果的に活用した避難訓練が実施できた。
- 今後も緊急地震速報受信機を活用した避難訓練を繰り返すことで、児童の避難行動のスキルを高めていく必要がある。また、余震を想定した訓練の実施など、様々な想定での避難訓練を計画・実施していく。

石巻市立万石浦小学校

所在地 石巻市渡波字境釜 1 番地 1

在籍数 228 名

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、渡波地区の東部に位置し、旧万石浦小学校の10地区（サン・ファン（小竹、佐須、祝田、月浦、侍浜）、万石町、塩富町（一・二丁目）、宇田川・後生橋、うしお町、垂水町、流留、表沢田、万石浦一区、万石浦二区）と旧東浜小学校の4地区（牧浜、狐崎浜、鹿立浜、福貴浦）の計14地区となっている。通学は徒歩又は保護者の家用車による送迎であるが、祝田地区と荻浜等の一部児童は、通学時の安全を確保する市の事業により、タクシーで通学している。



2011年東日本震災では、沿岸部にあるにもかかわらず、本校舎は津波の直接的被害を受けなかったが、校舎内外の壁や床に地震によるひび割れなどが見られた。体育館は床が落ち、使用できなくなった。学区内の大部分は、地震による建物の倒壊などの大きな被害はあまり見られなかったが、湾に面した一部の地区で浸水が見られた。当時の在校生のうち、保護者に引き渡した後、避難する途中で2名の児童が津波により亡くなっている。

近年の状況及び石巻市ハザードマップ等から次の点に注意している。

- ① 震災により1m程度地盤沈下したため、大雨や津波による浸水や冠水箇所が拡大した。
- ② 令和5年8月に改訂された津波浸水想定により、本校校庭も最大で82cmの浸水が想定されることになった。
- ③ 表沢田、塩富町、祝田地区は、大雨が降ると冠水する箇所が多い。
- ④ 学区内に土砂災害警戒区域があり、大雨が降ると危険性が高まる。

2 令和6年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4／15 緊急地震受信機を使った避難訓練
	5／2 地震・津波・原発事故想定避難訓練 津波警報発令後想定引渡し訓練
	9／27 休憩時地震避難訓練
	11／2 石巻市総合防災訓練
	第1部 石巻市一斉シェイクアウト訓練参加 第2部 各家庭で定めた避難場所への移動体験 第3部 各学級学年での防災学習 第4部 小中連携引渡し訓練
火災	11／1 火災想定避難訓練
その他	6／14 弾道ミサイル想定避難訓練
	11／8 不審者侵入想定避難訓練

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

4月15日業前活動の時間に緊急地震速報受信機の音源を活用した避難訓練を行った。

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・緊急地震速報について理解させるとともに、訓練時に驚かないように音源を活用して事前に聞かせた。
- ・防災頭巾の正しいかぶり方や机の下に避難した時の脚の押さえ方等について指導した。
- ・揺れが発生している時は、教職員自身も自分の安全の確保を確認した。



防災頭巾をかぶり廊下に整列する児童

② 訓練の取組状況

- ・緊急地震速報が鳴ると、慌てずに机の下に避難することができた。事前指導の通り、机の脚をつかみ「さる」のポーズを取り、安全確保することができた。
- ・廊下への整列も指示に従い、整然とできた。



安全確保の行動をとる児童の様子

③ 事後指導

- ・学級ごとに「できたこと」「がんばりたいこと」などについて振り返った。

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 児童は、緊急地震速報に驚くことなく冷静に避難行動をとっていた。
- 早い時期に訓練を実施し、災害に備えることができた。
- 防災意識を高めていくために訓練を行う日にちだけ伝え、速報が鳴る時間帯は事前に教えない訓練も必要である。今後、予告なしの訓練も検討していく。
- 大津波警報が出た時の避難場所を改めてマニュアルで再確認しておくことが必要である。

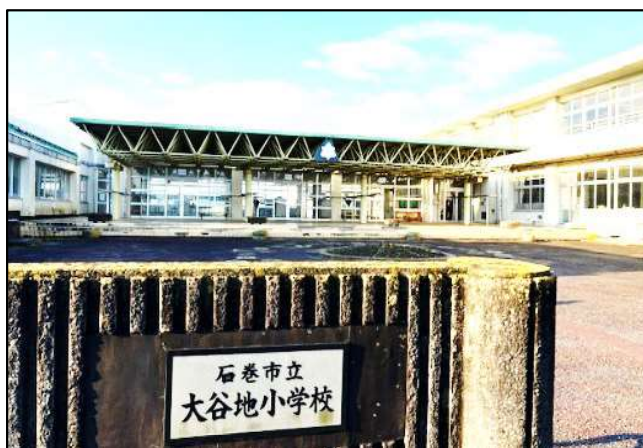
石巻市立大谷地小学校

所在地 石巻市小船越字角田 1 6 番地 2

在籍数 1 1 0 人

1 学校の概要（学校防災面）

後背湿地に盛土して建築され、校舎周辺は水田や畑の耕作地帯が広がっている。児童宅は校舎との距離が離れているため、送迎又は地区ごとに自転車で通学している。東日本大震災では、校舎及び学区に大きな被害は見られず、被災した住宅は数件であった。校舎周囲には崖等もないので、土砂災害の危険も少ない。ただし、ハザードマップ津波・洪水に関する想定では校舎及び学区が、3～5m 浸水域にあり、2階建ての本校校舎にとって垂直避難では、防ぐことができない。そこで、北上川の氾濫、堤防決壊のおそれがある場合は、3次避難場所である「沢田山」へ避難することとなっている。しかしながら、移動距離や時間を考慮すると、難しい判断が迫られる。本校では、訓練実施の際に、避難行動について慎重な検討を重ねているところである。



2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4 / 1 0 想定：地震時における避難経路及び地区毎集合場所確認
	5 / 1 想定：震度 7、堤防決壊のおそれによる 3 次避難沢田山避難訓練
	5 / 2 想定：下校時に揺れを感じた時の退避、避難行動の確認
	5 / 2 9 想定：引渡し訓練 河北地区幼保小中合同訓練
	9 / 1 1 想定：地震発生後、女川原子力発電所の異常時における避難
	1 1 / 2 石巻市総合防災訓練
	1 / 1 4 想定：児童予告なし、休み時間、緊急地震速報活用
火災	1 1 / 1 2 想定：校舎 1 階家庭科室より出火、消火訓練、担架活用
その他	6 / 1 1 想定：不審者対応、合言葉確認、教室施錠、バリケード作り

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・学級ごとに業前における防災タイムで、地震や避難行動について確認を行った。児童に「報知音が聞こえたら地震が起きる」ということを認識させ、速やかに退避行動ができるように繰り返し指導している。
- ・避難が必要となった場合の場面（場所、時間、季節等）に応じた持ち物、服装等児童の発達段階に応じて指導を行った。
- ・防災副読本を活用し、地震が発生した場合の安全な避難の仕方について指導した。児童に「お・は・し・も」の約束で安全な退避行動を意識させた。

② 訓練の取組状況

- ・今年度は計3回の避難訓練において、緊急地震速報を活用し、訓練を行った。児童は報知音が聞こえると、速やかに机の下に潜り、静かにその後の指示を待つことができていた。
- ・沢田山への避難訓練では、緊急地震速報後、誘導の指示に従い、校庭への第2次避難、さらに近隣の高台である沢田山への第3次避難を実施した。上下級生のペアを組み、互いの安全に気を配りながら沢田山に登る姿が見られた。
- ・第3次避難場所である沢田山老人憩の家では、各地区の地区長さん方にもお越しいただいた。同じ地区ごとに集合し、あいさつを交わした。顔と顔が見えることで、石巻市総合防災訓練の連携にもつなげることができた。

③ 事後指導

- ・訓練当日の避難行動等の振り返りを行った。学校で大きな地震が起きた場合だけでなく、学校以外の場所で地震が起きた場合は、地震に関する警報音が複数あることを確認し、その場に応じて、自ら考えて退避行動するよう指導を行った。



石巻かほくの記事より



石巻日日新聞の記事より

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 避難訓練時に緊急地震速報の報知音を使用することで、児童は「この音は地震が起きる」ということを意識し、第1次避難の習慣付けを図ることができた。沢田山への避難訓練では、多くの地区長さんの参加をいただき貴重なお話をいただくことができた。
- 沢田山へ避難する場合を踏まえ、震度や自然状況等の判断材料となる想定を教職員で話し合い、確認していくことが必要である。

石巻市立和湊小学校

所在地 石巻市和湊字佐沼川 2 0 0 番地

在籍数 6 2 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、南北に約 5 km、東西に約 4 km であり、学校から最も遠い地区の児童は自転車で約 3 0 分かけて登校している。

校舎は平成 1 8 年完成で、耐震構造であり倒壊等の危険性は低い。体育館は昭和 4 9 年完成で、床の傾き、一部窓の開閉不可、照明器具等の落下の危険性がある。校地の東側約 1 0 0 m に北上川が流れており、洪水の危険性がある。



西側には田畑が広がっており、地盤が頑強でなく、地震時には地割れや地盤沈下の危険性がある。

東日本大震災では、地震による被害が大きく、学区内の家屋は全・半壊が多数、マンホールの隆起や道路の陥没が数箇所あった。また、北上川は津波が遡上し、約 1 5 0 c m 水面が上昇した。校舎内外に大きな被害はなかった。体育館には数日間地域住民が避難していた。

防災教育の面では、「総合的な学習の時間」において、3 年生「安全な避難」、4 年生「洪水災害を調べよう」、5 年生「安全な場所への避難の仕方を考えよう」、6 年生「災害時の対応を考えよう」の単元を設定し、4 年間を見通した課題学習を設定している。

2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等	
地震 津波	5/10	想定： 学校生活中に石巻市内で震度 6 を観測する地震が発生し、児童を保護者へ引き渡す必要が生じる（引渡し訓練も実施）。
	9/11	想定： 休憩時に石巻市内で震度 5 強の揺れを観測する地震が発生し、地震により校舎内が停電になる。校長、教頭は不在である。
	1/22	想定： 休憩時に石巻市内で震度 5 強の揺れを観測する地震が発生し、校舎内で通行できない場所が発生する。
火災	10/22	想定： 校舎 3 階の家庭科室から火災発生。延焼の可能性があるため、避難させる必要が生じる。
地震 原子力 災害	10/28	想定： 石巻市内で震度 6 を観測する地震が発生し、女川原子力発電所の施設に事故が起きた。その後、石巻市災害対策本部より屋内避難の指示が入る。
その他	6/25	想定： 授業中に、不審者が校庭を徘徊する。職員室にいる職員が校庭で対応中に、言動などから不審者と判断し、対応する職員を増員すると共に児童に被害が出ないようにする。
	4/30	シェイクアウト訓練の音源を活用しての避難訓練を 4 回実施する。 想定： 業前に石巻市内で震度 5 強の揺れを観測する地震が発生した。

9/ 2	想定： 業間に石巻市内で震度 5 強の揺れを観測する地震が発生した。
9/20	想定： 昼清掃中に石巻市内で震度 5 強の揺れを観測する地震が発生した。
1/14	想定： 業間に石巻市内で震度 5 強の揺れを観測する地震が発生した。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要 5月10日（金）

学校生活中に石巻市内で震度 6 弱を観測する地震が発生し、児童を保護者へ引き渡す必要が生じる。

① 事前指導等

- ・ 児童に対し、地震が発生したらどのように対処するか様々な想定を考えて指導した。
- ・ 職員は、事前にシミュレーションを行い、避難誘導の動きや避難経路、引渡しの手順を確認した。
- ・ 1 年生は、初めての避難訓練だったので、避難経路を事前に歩いて確認した。

② 訓練の取組状況

- ・ 一次避難の際、児童は、机の下に避難したり、低い姿勢で頭を守る姿勢をとったりするなど、身の安全を確保することができた。
- ・ 二次避難の際「お・は・し・も」の約束を守り、安全に校庭へ避難することができた。
- ・ 集合場所では静かに待つことができた。

③ 事後指導

- ・ 各自がどのような避難行動をしたか振り返った。また、避難の指示をしっかりと聞くことができていたかについて確認した。
- ・ 職員は、各自の避難行動や指示、誘導が適切であったか振り返り、後日、職員会議において共通理解を図った。



校庭へ避難する様子



校庭に避難している様子



引き渡し訓練の様子

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 緊急地震速報の音が鳴った時点で、放送による指示をよく聞こうとする態度が養われているため、緊張感をもって訓練に取り組むことができた。
- 河南東中学校区の小学校、保育所で引渡し訓練を行った。事前に通行方法の周知を図ったため学校周辺は交通渋滞なく実施することができた。
- 今年度は、各避難訓練の日時を職員、児童に周知して実施した。来年度は、発災時に備え、予告なしの避難訓練の実施を検討したい。

石巻市立湊中学校

所在地 石巻市湊東一丁目 1 3 番地 1

在籍数 5 0 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、旧北上川の東側に位置し、西は日和大橋、新内海橋、石巻大橋によって市街地と結び、東は渡波地区に隣接し、南は太平洋、北には避難場所となる牧山につながる大門崎公園がある。

東日本大震災では、6 mを超える大津波で校舎 1 階天井まで浸水被害が及んだ。そのため、石巻中学校での間借り生活を経て平成 2 6 年 3 月まで中里小学校内仮設校舎で過ごし、同年 3 月 1 5 日に本校舎へ戻ることができた。



2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	5/15 想定：宮城県沖を震源とする地震が発生し、大津波警報が発表された。津波到達予想時刻までの時間がわずかであるため、校舎 4 階へ垂直避難を決めた。 6/ 3 想定：宮城県沖を震源とする震度 7 の地震が発生。宮城県沿岸全域に大津波警報が発表され、大門崎公園へ避難する状況となった。 9/25 想定：宮城県沖を震源とする地震が発生した。津波注意報等が発表される心配があるため、一次避難を行った後、校舎 4 階へ二次避難した。 12/10 想定：地震が発生し、大津波警報が発表された。津波到達予想時刻までの時間がわずかであるため、校舎 4 階への垂直避難を決めた。
火災	10/31 想定：校舎 2 階の調理室から出火。校舎全体に延焼の可能性があるので、全校生徒に屋外への避難を指示した。
その他	〔保護者引き渡し訓練〕 5/23 想定：冠水の影響で道路が通行止めになり、後に解除されたが、生徒を自力で下校させるには厳しいため、保護者引渡しを決定した。 〔大雨・洪水想定避難訓練〕 7/17 想定：降り続いた大雨により、「旧北上川氾濫のおそれあり」と発表された。旧北上川の浸水想定区域にあることから、生徒の安全を考え、校舎 2 階以上へ垂直避難を指示した。 〔原子力対応避難訓練〕 1/15 想定：宮城県沖を震源とする震度 5 強の地震が発生。その後、女川原子力発電所において重大な事故が発生し、「警戒事態」となり、屋内退避を要する状況となった。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

防災タイムを活用し、地震と津波をテーマとした学習を行い、下記の点について確認・指導した。

→校舎内の避難経路及び二次避難先への避難経路。

→訓練に臨む態度について。

→防災教育副読本を活用して、地震や津波の仕組みや避難の仕方などを学習した。

② 訓練の取組状況

- ・緊急地震速報の音源を使用。
- ・津波想定での二次避難訓練では、どの学年の生徒も真剣に臨み、素早く避難行動をとることができた。
- ・教職員はトランシーバーを用いて情報共有や連絡等を行った。

③ 事後指導

- ・訓練後に Google フォームを用いてアンケートを実施し、訓練への取組について振り返った。



部活動時ショート訓練



火災想定避難訓練



地震・津波想定避難訓練

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

○事前指導において市の防災教育副読本を活用し、在校時に教室以外の場所で地震等が発生した場合の避難行動について考えさせることができた。

○地震・津波想定避難訓練などの各種訓練を実施したことで、避難の仕方や身の守り方を改めて確認することができた。

○トランシーバーを活用して教職員間の連絡や情報共有を図ったことで、校舎内検索や避難経路の安全確認等の時間を短縮でき、素早い避難行動につなげることができた。

●今年度は訓練の実施日が近いことがあったため、来年度は実施日を調整し、定期的に訓練を実施していくことで、生徒や教職員の防災意識を高めていきたい。

●原子力対応避難訓練において、放射能による被ばくを防ぐ対策など、生徒や教職員を放射能から守る対策を講じていく必要がある。

石巻市立青葉中学校

所在地 石巻市門脇字一番谷地 5 1 番地 1 0

在籍数 1 8 6 人

1 学校の概要（学校防災面）

本校は、石巻市の西部、東松島市と境界を接する地域に位置し、学区は上釜、下釜、上大街道 1・2 の 4 地区である。地域が国道 4 5 号線及び 3 9 8 号線沿いにあるため、近年振興商業地域として著しく都市化が進み、他地区からの移住者も多い。東日本大震災により、北上運河を境に海側の上釜、下釜地区が特に大きな被害を受けたが、現在は着々と復興と生活再建に向けた取組が進んでいる状況である。地域の避難所に指定されており、市総合防災訓練では、地域と合同の避難訓練を実施している。



2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/11 想定：(地震) 6 校時授業中に震度 7 の直下型地震が発生。校舎天井や柱など、複数個所に亀裂が生じる。非常階段も一部損傷しているため、昇降口と校舎西校庭への二次避難を行う。 5/23 想定：(地震) 6 校時に体育館で体育祭の練習中に、震度 5 強の緊急地震速報が流れる。体育館で一斉に一次避難の仕方を確認する。 7/11 想定：(地震) フリー参観日の 3 校時休み時間に、震度 5 弱の緊急地震速報が全校に流れ、その場で一次避難を行う（教室、廊下、階段、校庭など）。 11/2 想定：(地震・津波) 全校生徒登校日として石巻市総合防災訓練に参加。学区内の 4 地区の避難訓練に地域住民と合同で取り組む。午後からは学校で一斉に防災学習後、生徒の引渡し訓練を行う。 12/11 想定：(地震) 5 校時後、全校集会への移動途中に、震度 5 弱の緊急地震速報が全校に流れ、その場で一次避難を行う（教室、廊下、体育館）。
火災	10/10 想定：(火災) 5 校時後の休み時間、校舎 2 階理科室で出火。非常階段と中央階段を使い、全校生徒が校庭へ避難。
その他	9/18 想定（大雨・洪水）線状降水帯の急激な発生により、石巻市全域が避難対象となる。学校には生徒がいるが、大雨で帰宅できない。校舎の浸水に備えるとともに、地域住民の避難場所の確保が必要となる。 2/10 想定：(原子力災害) 地震・津波からの原子力事故想定。生徒は教室内で地震に対する一次避難の後、原発事故対応でそのまま屋内退避。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

4月には各クラスで、5月には体育館で一斉に、一次避難の基本姿勢について指導を行い、地震が起きた時の心構えを持たせた。7月には緊急地震速報が流れた際の避難行動について、防災教育副読本「学校にいるときに地震が起きたら」を使用して学習し、確認した。また、12月には過去の自分の避難行動を振り返らせ、校内で違う場所・違う時間帯だったらどう行動するかを事前に考えさせた上で訓練に臨ませた。



訓練前の事前指導の様子

② 訓練の取組状況

7月、12月ともに、時間の予告はせずに訓練を行った。7月は保健体育の授業でプールに移動中に避難となった生徒もいたが、建物から離れた所へ移動して避難姿勢をとっていた。また、12月は集会への移動中だったが、担任の指示の有無にかかわらず、自主的に避難行動を取ることができていた。



訓練中の様子

③ 事後指導

緊急地震速報時の避難行動については、「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所や状態を最優先するなど、事前指導で学習したことについて確認し、その後、タブレットを活用して、Google フォームで各自の振り返りを行った。



事後指導の様子

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 授業中や休み時間等、様々な場所を想定して実施した。教室にいた2・3年の生徒は、経験が生かせる分だけ落ち着いて行動できたが、一方、経験の少ない1年生や、教室以外の場所にいた生徒についてはまだ戸惑いも見られた。今後も予告なしでこのような訓練を行うことの重要性を感じた。
- 緊急地震速報受信機の動作確認と、聞こえる範囲を確認できた。
- 緊急地震速報受信機の大音量に驚いて次の行動に移れなくなる生徒も見られた。心理的な面での個々の配慮について考えていく必要がある。
- 受信機の音が近隣にも響き、近くの保育所を驚かせてしまったので、事前に連絡をとる必要を感じた。

石巻市立寄磯小学校

所在地 石巻市寄磯浜五梅沢 2 4 番地

在籍数 2 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、牡鹿半島の東に突き出た寄磯岬にあり、寄磯・前網の 2 地区からなる。東日本大震災により多くの家屋が流出し、地区は大きな被害を受けた。その後、浜と漁業の再建に励んでいる。ホヤやホタテなどの養殖は以前のように回復してきているが、人の流出が止まらず、人口減少が続いている。

本校は、高い土地にあり、地域の避難所となっている。



2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	6/11 想定：地震 緊急地震速報の通知音により、強い地震発生を感知する。児童及び教職員は、揺れに備えて各自身を守る。 11/ 5 想定：地震、原子力 震度 5 強の地震が発生し、児童は屋外に避難する。その後、東北電力女川原子力発電所において、放射能漏れ事故が発生し、緊急に室内に避難する。
火災	11/18 調理実習中に理科室より火災が発生した。担任と教頭が初期消火を試みるも、消火に至らないため、校庭砂場に避難を行う。
その他	7/10 想定：土砂災害 大雨が続く中、裏山から小石が崩れ、崖から水が噴き出していることに用務員が気付く。土砂災害の恐れがあると判断し、2 階ホールに避難する。 5/22 想定：不審者対応避難訓練 玄関インターホンが鳴り、用務員が来客に対応したところ、不審な言動とともに校舎内へ侵入し、教室へ向かおうとする。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・ 業前の防災の時間を活用し、地震発生時の避難行動について確認する。
- ・ 大きな地震が発生した際の二次災害（原子力災害や津波発生）について学ぶ。



防災の時間に災害について学ぶ

② 訓練の取組状況

- ・ 緊急地震速報の音を聞き、机の下に一次避難をする。
- ・ 大きな揺れにより、コンセントがショートして火災が発生する。
- ・ 児童は大きな声で火災発生を知らせながら移動し、職員室に火災発生状況を伝え、校庭に避難する。



緊急地震速報を聞いて一次避難する

③ 事後指導

- ・ 大きな地震発生により、火災が起きる危険性があり、その場合は身の安全を確保しながら、迅速に避難する必要があることを指導した。
- ・ 消防署署員の方から、火災を起こさないためにどのようなことに気を付けて生活していくべきかを指導された。



全体会・事後指導

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

○地震発生による火災想定避難訓練を行ったことで、災害時に起こり得ることを職員が考えるきっかけとなった。避難所運営や備蓄倉庫を使うことが考えられたため、キーボックスを持ち出すことが新たに訓練の中に加わった。複合的な災害について職員が対応する訓練をすることができた。

●本校では、教職員が少ないことや常勤ではない職員が多いため、日によって災害時の職員の役割が異なる。また、担任が初期対応にあたるため、児童のみで避難しなければならないことも考えられ、今回の避難訓練でも児童が大きい声で火事を知らせる訓練を行った。児童が教職員の指示に従って避難する訓練だけでなく、異常を知らせたり、助けを求めたりするためにいざというときに大きい声を出さなければならないということを児童に日頃から意識付けすることの大切さを感じた。

石巻市立石巻中学校

所在地 石巻市泉町四丁目7番15号

在籍数 331人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、旧北上川の河口の北西に位置し、学区の半分以上は海岸線に近い低地である。学区の南側が海岸方面、東側が北上川河口部、北側と西側が商業地と繁華街になっている。

校地は、日和山丘陵地帯の頂上付近にあり、市街地全体の避難所としても機能している。東日本大震災時には、震度6弱の地震により校舎に亀裂が入ったが、校地内への津波の被害はなかった。



学区内は日和山以外の地域で浸水の被害があった。また、大雨の際は、学区東側の北上川河口部の地域で川の氾濫のおそれがあり、学区西側の石巻駅周辺の低地では、内水氾濫による浸水が心配される。2021年度より隣接する門脇中学校と統合し、大街道小学校区が学区内となった。

「地域防災連絡会」は石巻小学校区及び山下小学校区、大街道小学校区でそれぞれ行っており、そのいずれにも出席し、地域との連携を行っている。また、本校を避難所としている泉町町内会と双葉町町内会、学校運営協議会防災教育部のメンバー、石巻市役所の石巻中学校担当職員で、「石巻中学校避難所開設協議会」を設立し、避難所の開設や石巻市総合防災訓練の参加について連携を図っている。

石巻中学校校舎の老朽化対策工事のために、旧門脇中学校の校舎で生活していたが、昨年度末に終了し、今年度から石巻中学校新校舎での教育活動を行うことができるようになった。

2 令和6年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/22 地震（授業時間中、校庭への2次避難、原子力事故対応のための3次避難）
	5/13 地震（部活動時間中、シェイクアウト）
	6/21 地震（清掃時間中、シェイクアウト）
	1/24 地震（休憩時間中、原子力事故対応訓練）
	2/19 地震（部活動時間中、シェイクアウト）
火災	5/20 （授業時間中）
その他	10/30 不審者対応訓練（授業時間中）
	11/2 保護者への引渡し訓練

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・石巻市防災副読本を活用し、学校で地震が起きた時の一時避難の行動、校舎内の危険箇所等について確認した。
- ・緊急地震速報の仕組みを説明し、警報音が鳴ってから揺れが来るまでにできることを考えられるようにした。
- ・一次避難行動について、石巻市防災副読本を活用して、全学級共通の指導を行った。



説明用画像(石巻市防災副読本 p.15 より)

② 訓練の取組状況

- ・4月の訓練では、授業中の一次避難訓練、校舎倒壊の危険を回避するための二次避難及び原子力災害対応の三次避難を行った。
- ・清掃時間や休憩時間、部活動時間中に緊急地震速報を流し、その場に応じた避難行動をとるシェイクアウト訓練を行った。

③ 事後指導

- ・4月の訓練では全体指導として、訓練の講評を含め校長からの講話を行った。
- ・シェイクアウト訓練後には、担任や顧問からの指導を行うとともに、Google フォームを用いて振り返りアンケートを行った。

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

○実施後の生徒の振り返りには、「その場に応じて電気がないところへ移動してダンゴムシポーズができた」、「落ちたり、倒れたりする危険性があるものから離れて、床にしゃがみ込み、頭を守る動作をする」というようなものがあり、安全な場所をその場で考えて、その場での初期退避行動を、生徒一人一人が考えて行う力が身に付いていることが分かった。また、部活動時間中にシェイクアウト訓練を実施した際には、上級生が周囲を見て声を掛け、下級生に対して避難行動を指示する姿が見られ、自分の身を守る「自助」の意識だけでなく、周囲の人々に対しても助け合いの心をもつ「共助」の意識を高めることができた。

●現在は緊急地震速報の音だけを録音して校内放送で流す方法をとっている。外にも大きな音が流れる緊急地震速報機を効果的に活用するためには、地域住民への十分な周知と理解が必要となる。地域と連携した訓練につながることであるので、どのように周知し、理解を得ていくかを今後の課題として検討していきたい。

石巻市立北上小学校

所在地 石巻市北上町十三浜字小田 9 3 番地 4
在籍数 6 2 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、旧北上町全域である。北上川と追波湾に沿って東西に細長く広がっており、北上川沿いに県道 1 9 7 号線、国道 3 9 8 号線が通っている。

校舎の北側には、にっこりサンパークがあり、北上中学校と本校の 3 箇所は石巻市の指定避難所である。また、北上地区内には全 1 3 か所の指定避難所・指定緊急避難場所がある。令和 5 年 8 月に石巻市が公表した津波ハザードマップでは、8 か所の施設の安全が確認された。

本校の徒歩圏内には、北上こども園、北上総合支所、河北消防署北上出張所、河北警察署北上駐在所が存在し、学校周辺が北上地区の防災における中心的な拠点である。地域防災連絡会を年 2 回開催し、緊密な連携を図ることができている。



2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/10 想定：授業中の地震・津波【緊急地震速報受信機活用】 6/ 7 想定：下校時の地震・津波 6/28 想定：不審者出没（北上地区園児・児童生徒一斉引渡し訓練） 12/18 想定：清掃中の地震【緊急地震速報受信機活用】 2 月（予定）想定：給食中の地震【緊急地震速報受信機活用】
火災	11/ 7 想定：授業中の火災【緊急地震速報受信機活用】
その他	10/24 想定：原子力災害想定避難訓練

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- 緊急地震速報の内容の確認
- 報知音が流れた場合の対応行動
 - ・ 安全な場所（落ちてこない、倒れてこない、移動してこない）に素早く避難。
 - ・ 頭を守り、身を低くすること。
 - ・ 校庭にいる場合は、校舎、遊具から離れ、身を守る。
- 防災教育副読本の活用

② 訓練の取組状況

○ ねらい

4月10日、年度始めの避難訓練である。教職員、児童が決められた避難経路を通り、第二次避難場所まで避難することを確認する訓練であった。

○ 想定

第2校時（9時25分）に宮城県沖を震源とする震度6弱、M9.0（東日本大震災と同程度）の地震が発生する。教室内で一次避難をする。その後、余震が続くため校庭に二次避難をする。二次避難後、津波警報が発表され、校舎2階に三次避難をする。

○ 受信機の設定

本校では、「震度6弱」、「到達秒数1分」、「地震疑似音する」、「津波訓練する」としている。

○ 訓練の様子

発報音直後に、児童は机の下に身を隠した。児童は、「落ちてこない」「倒れてこない」「物が移動してこない」場所を見付け、一次避難ができた。その後、「おはしも」の約束を守りながら、校庭への二次避難を整然と行うことができた。



校舎2階へ三次避難

二次避難後、津波警報が発表されたことから、より高い校舎2階へ三次避難を行った。その際、高学年が低学年とペアになり、高学年が低学年の児童の手をつなぎ、落ち着いて校舎2階へ避難を行うことができた。

③ 事後指導

訓練後に、学年の実態に応じて、「放送や教師の指示に耳を傾け、避難行動をとることができたか」を振り返らせた。その際は、防災副読本も活用した。

また、訓練中の児童の様子や教職員の動きについて訓練に参加した教職員で振り返り、課題や疑問について確認を行った。

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

○ 緊急地震速報受信機を活用した訓練を継続して行うことで、「自分の命は自分で守る」という意識を高めることができた。

● 緊急地震速報受信機の「到達秒数」などの設定を変えて訓練を行い、児童・教職員が地震発生の際に瞬時に対応する力を更に高めていきたい。

石巻市立牡鹿中学校

所在地 石巻市鮎川浜鬼形山 1 番地 2 4

在籍数 2 0 人

1 学校の概要（学校防災面）

校地は半島部の海拔 3 7 m の地点にある。東日本大震災における津波の被害や土砂災害はなかった。しかし、学区の大部分は津波で浸水して地域住民には多大な被害があった。通学バスルートや徒歩通学者は浸水地域を通らなければならない状況にある。なお、本校は牡鹿地区の避難所の一つに指定されている。令和 4 年度より大阪教育大学学校安全推進センターに S P S（セーフティプロモーションスクール）として認証され、来年度は再認証の予定である。



2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/10 想定：地震・津波（放課後 一次避難から三次避難確認） 4/26 想定：小中合同引渡し訓練（授業中・三次避難） 5/ 9 想定：地震（部活動中 一次避難） 10/ 2 想定：地震（朝の会時 一次避難） 11/26 想定：地震（昼休み 予告なし 一次避難） 2/ 7 想定：地震（放課後 予告なし 一次避難）
火災	11/ 1 想定：地震・火災（授業中 一次避難から二次避難）訓練後、全校生徒で放水体験・煙道くぐり体験を実施
その他	6/ 3 想定：地震・原子力対応（授業中 一次避難、屋内退避） 7/ 5 想定：竜巻特別警報発表時の対応の仕方の確認 7/18 生徒・生徒・教職員対象に救命救急講習会 8/22 教職員対象に不審者対応訓練・研修会 11/ 2 石巻市総合防災訓練時に小中連携の炊き出し訓練等の防災訓練・防災体験学習 2/10 「3.11 みやぎ鎮魂の日」に係る防災講話

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・ 4 月の職員会議で全教職員に本校の安全・防災教育の年間計画等について説明し、緊急地震速報受信機の活用方法の仕方を伝講した。



- ・学級担任より「未来へつなぐ」（市防災教育副読本）を活用しながら、正しい情報に基づいて適切に避難する方法等を事前指導し、生徒の主体的な一次避難を行うことができている。



主体的な一次避難の様子

② 訓練の取組状況

- ・訓練時は、常に緊急地震速報の放送を行った。
- ・一次避難：シェイクアウト訓練を実施した。実際に震度2程度の地震を利用し、避難訓練と同様の訓練を行っている。
- ・二次避難：校庭へ避難させ、安否確認や点呼を取ることで迅速に行った。
- ・三次避難：別日の小中引渡し訓練の際に防災主任から避難の際の移動場所や移動する際の留意点について確認し、その後に避難させた。



迅速な二次避難の様子



安全に移動する三次避難の様子

③ 事後指導

- ・生徒の避難行動後の振り返りと校長からの講評により、適切で迅速に避難行動ができた成果と災害の状況に応じて臨機応変に避難行動がとれるような判断力を身に付けるという改善点を確認できた。（全体会）
- ・一次避難から二次避難、三次避難行動までの振り返りを実施した。（各学級）



三次避難場所での引渡しの様子

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 三次避難場所で鮎川小と合同で保護者引渡しを行ったことは有意義であった。
- 全教職員と生徒が事前に共通避難行動（シェイクアウト訓練、三次避難までの経路等）を確認していたので、生徒の避難誘導・人員確認までの動きが確実にできた。
- 消防署職員から、発報後の一次避難、二次避難、誘導、検索の指示・確認まで迅速かつ適切に行われ、生徒と教職員の動きが全体的に良好であったという講評をいただいた。
- 今年度の小中合同引渡し訓練の計画に原子力災害対応の避難行動を加えた流れ等を検討し、さらに避難計画内容を地域の実態に応じたものにしていきたい。

石巻市立雄勝小・中学校

所在地 石巻市雄勝町大浜字小滝浜
2 番地 2

在籍数 小 2 0 人、中 9 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、旧雄勝町内全域である。平成 2 9 年度より現在の場所に新築移転した。

県道沿いに面し、南側に海を臨む。校舎は海拔 2 0 m の高台に位置するが、県道から約 1 0 m 下がったところにあり、高低差の大きい敷地である。校舎の北側は全て急な法面で大雨の際は土砂災害等の危険が考えられる。現在も 1 割以上の児童生徒が学区外に居住しており、学区内外にかかわらず全校児童生徒が通学タクシーで通学している。



2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/11 避難経路の確認
	4/12 想定：通学タクシーでの下校途中に地震が発生。タクシー運転者は高台等安全な場所へ避難し、学校と連絡を取り合う。
	5/17 想定：授業中にマグニチュード 9. 0 の地震が発生。余震が続き、倒壊や火災などの災害も予想されるため、急いで体育館に避難しなければならない状況になった。避難後、大津波警報による避難指示発令により、より高い雄勝保育所へ避難した。その場で一次避難、アリーナに二次避難、そして雄勝保育所への三次避難を行う。
	11/2 想定：児童生徒が地域にいる際に被災し、各地区の緊急避難所に避難を行う。
火災	11/18 想定：家庭科室で授業中に火災が発生したため、校庭に避難。消火器で消火訓練を行う。
その他	12/11 シェイクアウト訓練
	10/1 想定：マグニチュード 9. 0 の地震により、女川原子力発電所においてトラブル発生。放射性物質が放出されたため、体育館器具庫へ避難を行う。
	2 月中旬 シェイクアウト訓練（予定）

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・ 緊急地震速報の仕組み（震源地からの揺れの伝わり方と緊急地震速報が流れるまで）について、児童生徒の実態に応じて指導を行った。
- ・ 小学校では事前学習として、業前の時間に「防災の時間」を設定し、緊急地震速報の音を全校児童で確認し、一次避難の仕方について実地体験を行った。
- ・ 校内放送によるシェイクアウト訓練実施前にも、児童生徒の実態に応じて指導を行った。



【全校で事前指導】

② 訓練の取組状況

- ・ 一昨年度までは校外に流れることのないよう、緊急地震速報受信機の音声を録音し、校内放送として利用していた。今年度は近隣住民への周知や合同参加の呼び掛けを行い、地域を巻き込んで緊急地震速報受信機を活用することができた。



【机の下へ一時避難】

③ 事後指導

- ・ 避難訓練実施後は、小・中学生それぞれに分かれて、「やってみてどうだった？」と、その場で振り返りを行い、全員に発表の場を設けた。
- ・ Google フォームを活用し、教職員にも、児童生徒の避難の様子や職員側の対応等について、振り返りを行った。



【二次避難完了】

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 緊急地震速報、校内放送、ハンドマイク等、どのような手段で地震の発生や避難指示を行っても、児童生徒は適宜対応し、真剣に訓練を行う様子が見られた。
- 訓練の内容に関わる事前指導や事後指導、学活での防災教育を大事に扱うことで、防災に対する意識がより高められている。
- 自他の命を守るために、多様な状況に対応した訓練を繰り返し行える環境を地域と連携しながら整備していきたい。

石巻市立渡波中学校

所在地 石巻市さくら町四丁目1番地

在籍数 284人

1 学校の概要（学校防災面）

渡波中学校区は、渡波小学校区、鹿妻小学校区からなる。全生徒が徒歩で通学する。一部、学区外に居住する生徒は保護者の送迎で通学している。周辺は土地が低く冠水する場所があり、これまでに何度か通行止めになっており、教職員や生徒の通行に影響を及ぼした。校地から北西の高台の稲井につながるトンネルが開通し、立ち退き避難の検討をしている。



校庭を駐車場として開放し、ドライブスルー方式での引渡しが可能になったほか、校舎2・3階の吹き抜け部分に落下防止網が設置され、より安全な学校生活を送ることができる環境となった。昨年度は、校舎北側2階と3階の死角となる場所に防犯カメラを設置し、更なる学校安全を目指している。

S P S 認証校として2年目、東日本大震災から14年が経過しようとしている今、改めて災害安全について、充実した学校を目指している。

2 令和6年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/19 想定：地震・津波（基本となる避難経路の確認） 5/ 2 想定：地震・津波（部活動中） 6/13 想定：地震・津波（休み時間、ショート訓練） 9/ 4 想定：地震・津波（部活動中） 10/30 想定：地震・火災・津波 11/ 2 想定：地震・津波（石巻市総合防災訓練、復興防災マップづくり検証のための街歩き）
火災	10/30 想定：地震・火災・津波
その他	6/26 想定：屋上プールでの事故 心肺蘇生法講習（職員研修） 2/27 想定：不審者対応（ショート訓練）

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前準備・指導等

- ・緊急地震速報受信機の使用方法を打合せ等で周知してきたが、全職員が使用できるようにすることを考え、取扱説明書の写しをラミネート加工し、受信機の近くに常備している。
- ・今年度は、防災主任以外が発報を担当した訓練も実施した。
- ・東日本大震災から間もなく14年が経過することを考慮し、被害が大きい地域に生活していることを意識させるために、事前指導を行った。



- ・部活動中の訓練については、伝統である部長会議を開催し、各活動場所でのリスクや適切な避難行動について考え、避難経路や避難場所について更新して実施した。

② 訓練の取組状況

- 4/19 新しい教室からの避難経路と、教職員の基本的な動きの確認を一番の狙いとして実施した。
- 5/2 新入生の所属部活動が決まり、活動場所からの避難を想定して実施した。
- 6/13 告知を行わず、休憩時間中の緊急地震速報受信機の放送を受け、一次避難を行い、安全確認後に教室で点呼を取る訓練を実施した。
- 6/26 消防署と連携し、非常時の心肺蘇生法講習及び屋上のプールでの事故を想定した教職員での訓練を行った。校舎の構造が特徴的であり、救急隊の入校経路などの確認もできた。
- 9/4 部活動中の地震・津波を想定し、顧問不在の部活動を設定し、部長がリードして、生徒が自主的に高所避難を行った。
- 10/30 地震と火災についての避難訓練を行った。その後、石巻市総合防災訓練に向けて、地区別集会を実施し、地区のリーダーなど、組織の確認を行った。
- 11/6 石巻市総合防災訓練の日を登校日として、各家庭から近隣の避難場所へ移動した。その後、8月から作成に取り組んだ復興防災マップを持参し、街歩きを行った。
- 2/27 不審者対応の職員研修として、不審者役・職員役・生徒役に分かれて、シナリオなしの不審者対応訓練を行い、成果と課題を話し合い、共有して、危機管理能力の向上を図る予定である。



③ 事後指導

- ・学校内外、卒業後も自主的に適切な避難行動を選択できる力を養うことを目標とし、各訓練後には生徒自身が考え、教師とともに振り返る時間を設定した。

(1) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 訓練や事前指導・事後指導を通じて、東日本大震災の記憶や経験のない世代となった生徒の防災意識や自主性を向上させることができた。
- 緊急時の連絡手段として、あえて通信機器などを使用しない訓練を実施し、本校の構造を考慮した訓練ができた。
- コロナ禍で途切れてしまった地域との活動が再開できた。
- 東日本大震災を経験していない（記憶にない）生徒への意識高揚の指導やその内容の検討がまだ十分ではない。
- 地域の方々に訓練等を参観していただくため、年度当初に予定を周知する。

石巻市立大街道小学校

所在地 石巻市大街道南一丁目3番1号

在籍数 224人

1 学校の概要（学校防災面）

学区の南側には石巻工業港があり、東日本大震災では、学区全域が浸水した。校地は高さ約1mの津波により浸水。校舎内は床上4～5cmの浸水。

校舎は鉄筋コンクリート3階建（屋上あり）。校舎、体育館ともに耐震補強工事済みである。本校の南側に高盛土道路が整備されたが、令和4年5月10日に公表された「宮城県津波浸水想定」では、「3～5m」となっている。



2 令和6年度避難訓練実施計画（地震関連のみ抜粋）

訓練	内 容 等
地震	4/19 想定：業前の時間に、震度6強の地震が発生。緊急地震速報の音を聞き、適切な避難行動をとる。 1/15、3/10にも実施予定
地震 津波 引渡し	5/24 想定：震度6強の地震が発生。地震による火災は発生しなかった。 大津波警報が発表され、全校児童は校舎3階へと避難する。 大津波警報解除後、児童を引取り人に確実に引き渡す。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

・4月（緊急地震速報訓練）

各学級において、緊急地震速報の仕組みについて、どのような場合に音が鳴るのかを指導した。その後、緊急地震速報が鳴った時の避難行動について、「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に避難することを指導した。



教室での避難行動の確認

・5月（地震・津波・引渡し）

地震、津波、引渡しの訓練となるため、地震発生時の1次避難、大津波警報発表時の2次避難、大津波警報解除後の引渡し方法についてそれぞれ指導した。

② 訓練の取組状況

・ 4 月（緊急地震速報訓練）

全校放送で緊急地震速報のアラーム音を2回流し、1回目はどのような音がするかの確認、2回目は机の下での身の守り方を指導した。

・ 5 月（地震・津波・引渡し）

緊急地震速報発報後、各教室等で1次避難を行った。その後、大津波警報が発表されたことを受け、校舎3階の学年ごと指定された教室へ避難した。大津波警報が解除されたことから、保護者への引渡しを行った。



緊急地震速報発報後の1次避難の様子①



緊急地震速報発報後の1次避難の様子②

③ 事後指導

・ 4 月（緊急地震速報訓練）

緊急地震速報の仕組みやアラーム音を理解することができたか、適切な避難行動をとることができたかなどについて、確認を行った。

・ 5 月（地震・津波・引渡し）

いつ、どのような場所でも適切な避難行動をとることができるように、防災の意識を常にもつことの大切さについて指導した。



事後指導で真剣に話を聞いている様子

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

○緊急地震速報受信機を活用した訓練を毎年行うことで、児童のアラーム音の理解が深まっている。

○学校にいるときにアラーム音が聞こえた場合は、いつでも避難行動をとるということが確認できた。

●緊急地震速報が聞こえたら、児童の安全だけではなく、教員自身の安全も確保するように今後も徹底していく。

●様々な場所や時間を想定して訓練を実施したり、児童に適切な避難行動について考えさせたりすることで、いつでもどこでも身を守る行動が自らできるように今後も指導していく必要がある。

石巻市立釜小学校

所在地 石巻市大街道西二丁目5番1号

在籍数 429人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、市の西南に位置し、東西約3km、南北約2kmに及ぶ。北北上運河沿いの国道45号線・398号線を中心に平地が続いており、西側は東松島市に接している。周囲に山や崖等はないため、土砂災害の危険はない。しかし、校庭の地割れや校舎と地面との段差発生の可能性はある。



学校の北側にある北北上運河は、大雨によって水があふれる可能性は低いが、想定されるハザードとして捉えておく必要がある。洪水による浸水は、本学区は50cm～1mほどの危険性があるとされている。

学区南部は太平洋を臨み、石巻工業港まで直線距離で約1.3kmである。東日本大震災では学区の大部分が津波により浸水した。学区北部は被災状況が比較的軽く、浸水深が浅かったが、海に近い学区南部では甚大な被害を受けた。しかし現在は復興公営住宅が完成、都市計画道路「釜大街道線」も部分開通し、着々と復興が進んでいる。

校舎は海拔2mであり、校舎1階の床上約1.3mまで浸水し、体育館はステージ高近くまで浸水した。そのため、東日本大震災と同規模の大津波が起きた場合、学校は床上1～2mの浸水となる可能性が高い。

海側から強い風が吹きやすい傾向があり、突風や竜巻等の強風による被害が想定される。また、女川原子力発電所から本校までの直線距離は約20kmであり、原子力発電所から30km圏（UPZ）となる。

本校は、石巻市の指定避難所となっている。また、津波、高潮、洪水、内水氾濫、土砂災害の指定緊急避難場所でもある。



2 令和6年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	5/10 想定：地震、津波（授業中） 1次避難：各教室 2次避難：3階以上の教室 引渡し訓練（1年生児童及び保護者のみ実施）
	7/16 想定：地震、津波（休み時間中） 1次避難：各場所 2次避難：各教室 3次避難：3階以上の教室
	9/30 想定：地震、津波 低学年持ち出し物品確認
	11/2 石巻市総合防災訓練 地域で参加

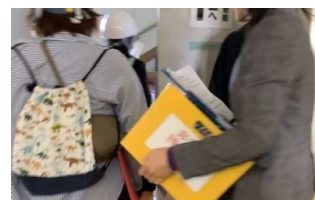
火災	11/13 想定：家庭科室より出火（授業中） 火元から遠い経路（非常階段等）を使用。
その他	12/5 想定：原子力発電所での事故。屋内退避。引渡しの準備（防災タイム）。 1/24 想定：校舎 1 階浸水。3 階以上への避難（防災タイム）。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・新年度開始直後に、各学級で避難経路の確認を行った。
- ・「防災タイム」で、地震発生時の行動を、学年の実態に応じて指導した。校内のどの場所にいたとしても「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所を近くに見付け、また「ダンゴムシのポーズ」をとることを指導した。1年生には、机の脚をしっかりとつかむことなど、自分の命を守ることにつながる知識についても指導した。



② 訓練の取組状況

- ・授業時だけでなく、休み時間や清掃時間中での災害発生を想定した設定での避難訓練をした。
- ・緊急地震速報受信機の設定やアナウンスを活用し、余震や刻々と変わる状況、臨場感を演出することができた。
- ・児童は緊急地震速報受信機の音声流れると素早く机の下に入り、自身の安全を確保していた。
- ・年度初めに職員研修を行い避難計画の確認や立地について研修会を行った。
- ・休み時間での避難訓練では、近くの教員の指示を聞いて行動したり速やかに身を守る態勢をとったりする様子が見られた。
- ・本校は津波浸水区域にある。大津波警報が発令された想定で校舎内に避難する際には、全児童が校舎 3 階以上の教室に速やかに避難することができた。



③ 事後指導

- ・いつ地震が起こるか分からないこと、どの場所にいても避難行動をとれるようにすることの大切さについて各学級で指導した。

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 引渡し訓練は、大きな混乱も無く実施できた。
- 予告なし・地震・津波の複合災害を想定した避難訓練を行うことができた。
- 警告音が鳴ると放送を聞かずに行動してしまう児童がいる。放送の指示をよく聞いて行動するよう繰り返し指導を行う。

石巻市立二俣小学校

所在地 石巻市大森字大平 6 番地

在籍数 1 2 1 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、北に 8 km、南に 5 km と広く、遠距離通学児童も少なくはない。学区の北東部には山地があり、北側には北上川、南西側には旧北上川が流れる。東部は、追波湾に面している。大きく二俣地区と大川地区に分かれ、大川地区においては、東日本大震災の津波により壊滅的な被害を受けた。



本校は、震災時の被害は少なかった。校舎は 2 0 1 6 年に大規模改造及び耐震工事をしているため倒壊等の危険性は低い。しかし、校舎東側と北側には山があり、大雨や地震等による土砂災害（崖崩れ）の可能性がある。2 0 1 9 年台風 1 9 号の際には、学校前の大森川が氾濫し、通学路に流木や泥が上がった。

2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	5/29 想定：6 時間目に地震発生、津波警報が発表される。 警報解除後、河北地区 8 園・所・校合同引渡し訓練。
	10/3 想定：M7.2、業間に緊急地震速報が鳴った際の身の守り方。 及び、2 度目の緊急地震速報（余震）に対する身の守り方。
	11/2 想定：石巻市総合防災訓練日に実施。 8 時 30 分、地震発生。各々の場所でシェイクアウト訓練を行い、その後、最寄りの避難場所へ避難行動を取る。
	1/16 想定：清掃活動中に地震があった際の身の守り方。
火災	11/13 想定：1 階給湯室より出火。東西階段を下り校庭に避難。
その他	6/24 想定：洪水・浸水害・土砂災害想定避難訓練。 登校後、前線性の豪雨により堤防決壊のおそれがあるため、校舎 2 階への垂直避難をする。
	2/10 想定：原子力避難訓練。屋内退避。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・日時は予告し、訓練のための緊急地震速報音が鳴ることを伝えておく。
- ・一次避難行動（緊急地震速報発報後の行動）の取り方について指導する。

- ※ 「落ちてこない 倒れてこない 移動してこない」 場所に避難する。
- ※ 基本は机の下に避難。基本姿勢はダンゴ虫。その場所に合った身の守り方。
- ・ 二次避難等、移動の途中であっても、余震の可能性があることを教え、緊急地震速報を聞いたら、その場で安全な場所を探し、身を守ることを指導する。
- ・ 校内放送を静かに聞き、慌てないで避難行動ができるようにする。
- ・ 教室にいる児童は、二次避難の際、ヘルメットを着用させる。

② 訓練の取組状況

- ・ 業間の時間帯。校庭や体育館、各教室、特別教室等、各々の場所にいる。教職員がいない場所もある。
- ・ 緊急地震速報（1回目）の音で、各自、頭を守り、一次避難を行った。
- ・ トランシーバー等を使って児童の安全確認をしたり、負傷者の有無を確認したりした。
- ・ トランシーバー等を使って避難経路安全確認の後、校長が二次避難を指示した。
- ・ 二次避難場所へ児童が移動する途中で、2回目の緊急地震速報音を流した。（余震に対する訓練）
- ・ 余震から身を守った後、二次避難場所に全員避難。人員点呼し、避難完了。（当日雨天のため、体育館に集まった。）
- ・ 三次避難の検討を行う。携帯ラジオで災害状況を把握し、津波の心配がないことを確認した。
- ・ 校長、教頭に情報を報告し、訓練を終了した。
- ・ 各教室に戻り、事後指導を行った。



一次避難、図書室で身を守る様子



二次避難中に余震から身を守る様子



二次避難完了後の様子

③ 事後指導

- ・ 緊急地震速報を聞いて、すぐに安全な場所で身を守れたか、避難の仕方や2回目の速報では、どのような行動を取ったかを振り返った。

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 教職員が、トランシーバーを使った情報共有の仕方に慣れてきた。また、トランシーバーが無い特別教室との情報共有の仕方を教職員間で周知できた。
- 児童が安全な場所を考えて身を守る姿勢が見られた。また、高学年児童は、下学年児童に声を掛けるなど共助の姿勢も見られるようになった。
- 負傷者がいた場合など、イレギュラーなことが起こることも有り得る。想定を変えながら対応力を高めていきたい。

石巻市立山下中学校

所在地 石巻市貞山五丁目 3 番 2 号

在籍数 1 7 2 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、旧北上川、北上運河に囲まれた平坦な地形であり、住宅地と商業施設が混在している。

東日本大震災では、1 m の津波浸水があり、ライフラインの復旧には 1 か月以上を要した地域もある。また、他地区への避難時はいずれかの橋を通るため、交通が集中し渋滞が懸念される。



2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/12 想定：宮城県沖を震源とする震度 6 強の地震が発生。年度初めであるため、基本的な避難経路を確認した。また、生徒を地区ごとに集合させ、家庭で地震が起きた際の避難場所や地区のメンバー等を確認させた。 6/6 想定：宮城県沖を震源とする震度 6 強の地震が発生し、その後大津波警報が発表された。2 次避難は事前連絡なしで、前回と同様の避難ができるかを見る訓練。3 次避難は大津波警報の発表を受け、校舎 3 階と 4 階へ避難を指示した。 11/2 市総合防災訓練 想定：北海道・三陸沖後発地震注意情報が発信された状況下において、後発地震（日本海溝沿いの巨大地震）の発生。自宅でのシェイクアウト訓練後、各地区の避難所へ 2 次避難。避難所運営のサポート等に参加した。 11/13、11/19、12/6 想定：巨大地震が発生した際に自分自身の安全を確保するため、シェイクアウト訓練の 3 つのポーズを意識した訓練を行った。朝の会、昼休み、部活動中の 3 回、予告なしで実施し、真剣な態度で訓練に取り組む姿勢などを身に付けさせた。
洪水	6/6 想定：昼頃からの急な大雨により北北上運河が増水。本校にあふれた水が流入。1 階に教室がある 3 学年のみを対象に避難訓練を実施。
火災	10/10 想定：調理室より出火。付近を通らない経路を指示し避難した。また、消防署員の指導による消火訓練と講話を実施。
原子力 事故	12/12 想定：東北電力女川原子力発電所で異常発生。炉心損傷により放射性物質が大気に放出された。P A Z 避難指示、U P Z 屋内退避指示のため、放送により屋内退避。その後広域避難について調べ学習を行った。
不審者 対応	2/10 想定：授業時間中、来客用昇降口より不審者が校内へ侵入。本校職員が発見した。机によるバリケード作成などを実施予定。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・月例の全校防災タイムでは、避難訓練の内容とリンクする防災副読本のページの読み合わせにより、災害のメカニズムや避難行動への理解を深めた。
- ・それを踏まえた上で、訓練当日の朝の会では、訓練の目的や具体的な身を守る行動に絞って確認を行った。
- ・緊急地震速報受信機の音声は震度によって異なり、音声を聞くだけでも迅速な避難が必要かどうかを判断できることなどを説明した。

② 訓練の取組状況

- ・緊急地震速報受信機を活用し、震度6強、10秒後の設定で実施した。直ちに安全な場所に避難行動をとることができた。
- ・緊急地震速報の報知音については訓練実施時のみ使用し、生徒の不安とならないよう配慮した。



年度当初の避難訓練

③ 事後指導

- ・避難訓練終了後、学級ごとに、訓練の内容を自己評価させるとともに、防災だよりにより振り返りのアンケート集計結果や新たに気づいた点などを掲載し、成果や課題を共有することができた。
- ・防災副読本を用いて、それぞれの考えを引き出せるような設問を考えた。



部活動時の訓練

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

○11月26日、5校時に震度2の地震が発生した際に、全校生徒が迅速に、整然と机の下に1次避難をすることができた。訓練放送による意識付けが効果的だったとみられる。

●2学期に機器が更新されたため、新しい機器を使用した訓練をまだ実施していない。今年度中に職員への使用方法の周知と、訓練は伴わずとも、新しい警報音を事前に聞いておく場を設けたい。

石巻市立開北小学校

所在地 石巻市大橋一丁目2番地1

在籍数 297人

1 学校の概要（学校防災面）

学校及び学区は、住宅地又は商用地である。また、低地にあり、海拔は0m以下である。

周囲に旧北上川が流れ、右岸堤防（高さ約3m）に囲まれている。海岸から直線距離3.15kmの平地にあり、土砂災害の危険は感じられないが、津波、洪水、内水氾濫等の水害、地盤の液状化、地割れ、地盤沈下等の災害の危険がある。



2 令和6年度避難訓練実施計画

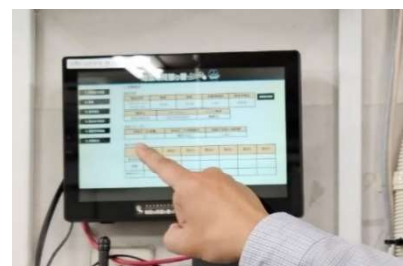
訓練	内 容 等
引渡し	4/15（月）：災害時における保護者への引渡し訓練 （中学校区3校合同で実施）
地震 津波	6/14（金）：授業時における地震・津波避難訓練 （緊急地震速報受信機を使用した訓練）
不審者	7/13（木）：石巻警察署の方を招いての防犯避難訓練・防犯教室
洪水 浸水	9/5（木）：休み時間における洪水・浸水対応避難訓練 （2階以上の教室への垂直避難）
その他	11/2（土）：石巻市地域防災訓練 ステージ1：地震・津波避難訓練 ステージ2：地域の自主的な災害応急対策訓練
火災	11/12（火）：火災対応避難訓練
地震	1/9（木）：シェイクアウト訓練（緊急地震速報受信機を使用した訓練）
原子力	2/7（金）：原子力事故発生時の対応避難訓練

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・ 訓練の目的や方法、避難経路を発達段階に応じて指導する。
- ・ 緊急地震速報が流れたら、避難行動に移るように指導する。
- ・ 教室以外で地震が発生したときの身の守り方を理解させる。



緊急地震速報受信機

② 訓練の取組状況

- ・ 教師は、児童を静かにさせたり、「ダンゴムシのポーズ」をとらせたりするなど、状況によって必要最小限の指示を出し、身の安全を確保させた。
- ・ 清掃時間中に、校内放送で緊急地震速報が流れた後、児童は素早く「ダンゴムシのポーズ」を取り、第一次避難行動をとることができた。
- ・ 各清掃分担区において、児童は安全な所を考えながら避難行動をとることができた。



清掃時間中の避難行動①



清掃時間中の避難行動②

③ 事後指導

- ・ 訓練終了後、各学級で事後指導を行い、どの場所においても「頭を守ること」を再度確認した。
- ・ 実際に地震が発生した場合、机の脚をしっかりとつかんでいても激しく机が揺れるほど、強い揺れが1分程度と長い時間続く可能性があることを伝えた。



清掃時間中の避難行動③

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 実際に地震が発生したときをイメージしながら訓練できるので、児童も職員も緊張感をもって訓練に参加することができた。
- 避難訓練の想定を少しずつ変更することで、教師や児童が危険を予知し、自ら考えて行動しようとする意識を高めることができた。
- 訓練を重ねたことで、児童は自らの安全を確保することや、避難経路を理解すること、体を守るための行動を考え迅速にとることができた。非常時も反応よく初期避難行動に移ることができると思われる。
- 発生時刻を変えたり、教職員の数が少ない日に訓練を実施したりすることだけで、一人一人に要求される行動や判断が変わり、迷うことがあった。今後も想定される様々なケースで訓練を実施し、防災意識の高揚につなげていきたい。
- 今後は児童や教員にも日時や時間を事前に伝えず避難訓練を行うなど、より実際の災害に近い想定で行うことで、教員や児童の防災意識を高めたい。

石巻市立中里小学校

所在地 石巻市中里五丁目7番1号

在籍数 164人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、石巻駅の西北約1.5kmに位置している。近年の経験やハザードマップの情報では、液状化や土砂災害の危険性は低い。しかし、旧北上川が氾濫した場合は、学校付近が0.5～3m、南中里地区が3～5m浸水すると予測されている。津波発生時は、学校付近が1～3m、南中里地区が3～5mの浸水が予測されている。学校付近の南西側の道路は強い雨が降るとよく冠水する。このように、水害による災害のリスクが高い。また、女川原子力発電所から、直線で約18kmに位置するUPZ圏内である。



2 令和6年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	6/7 想定：授業中に震度6弱の地震が発生。津波警報発表のため、校舎3階へ避難。津波警報解除後、マニュアルの規定に従い、保護者へ引き渡しを行った。 7/11 想定：業前活動中に震度5強の地震が発生。（第一次避難のみのミニ避難訓練） 11/2 想定：午前8時30分、最大震度6強の地震が発生。その後大津波警報が発表された。（石巻市総合防災訓練） 12/12 想定：昼清掃時に震度5強の地震が発生。（第一次避難のみのミニ避難訓練）
火災	10/28 想定：地震発生の影響で、3階家庭科室より出火。校庭へ避難。
その他	6/14 洪水・浸水想定避難訓練 想定：朝から降り続いた大雨により北上川が増水し、氾濫するおそれがあると判断。校舎3階へ避難。 7/4 不審者対応避難訓練 想定：授業中、東門を通過して校舎内へ不審者が侵入。 10/1 Jアラート発表のミニ避難訓練 想定：ミサイル発射によるJアラートが発表され、屋内退避。 11/28 原子力災害避難訓練 想定：地震発生後、炉心損傷により放射性物質が放出され、UPZ屋内退避指示が発表され、屋内退避。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・ 月に1回「中里防災の日」として、業前活動に防災学習を行っている。その中で、地震発生時の避難行動について指導した。基本は机の下等に避難（机の脚を持つ）又はダンゴムシのポーズで身を守ることを確認した。
- ・ 授業中や休み時間、清掃活動中などの学校内だけでなく、登下校中や各家庭での地震発生時の避難行動についても、発達段階に応じて指導した。



教室で一次避難

② 訓練の取組状況

- ・ 授業中だけでなく、業前活動中、清掃中、休み時間といった、様々な時間帯を想定して避難訓練を実施した。
- ・ 児童は緊急地震速報音を聞くと、素早く机の下に潜ったり、物が倒れてこない場所でダンゴムシのポーズをとったりして、自分の身を守ろうとしていた。
- ・ 一次避難後は、放送や担任の指示をよく聞き、二次避難場所の校舎3階へ、静かに避難することができていた。
- ・ 休み時間の訓練時には、上級生が下級生に声を掛けて避難する様子が見られた。



休み時間の避難訓練

③ 事後指導

- ・ 全体指導の後、各学級で防災教育副読本や自校で作成した振り返りカードを活用し、自分自身の避難行動について振り返りを行った。



副読本を活用した事後指導

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 緊急地震速報受信機を活用しての訓練を重ねるにつれ、児童は緊急地震速報音に敏感になり、教師の指示がなくとも落ち着いて避難行動をとることができるようになった。
- 毎年、訓練の想定を変えることで、児童も教職員もあらゆる想定に対応した避難行動について考え、適切に行動することができるようになっていく。
- 管理職や防災担当だけでなく、全教職員が緊急地震速報受信機を扱うことができるように、職員研修を充実させる必要がある。

石巻市立河北中学校

所在地 石巻市小船越字山畑 2 5 0 番地

在籍数 1 1 1 人

1 学校の概要（学校防災面）

旧河北町の南西に位置し、北上川・追波川・旧北上川の流れに囲まれている。

生徒は、3つの地区（二俣・大谷地・大川）から登校し、ほとんどの生徒は自転車で通学している。

（大川地区の生徒はスクールバスを利用）

台風や大雨等によって、田んぼなどの低地に水がたまることや、北上川が氾濫・増水することにより、学区内に洪水や浸水の危険性がある。



2 令和6年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/11 想定：地震・防災オリエンテーション (避難訓練：6校時)
	9/13 想定：地震（予告なし避難訓練：昼休み）
	11/2 想定：石巻市シェイクアウト訓練 → 登校せず自宅で実施
	1/22 想定：地震（予告なし避難訓練：部活動中）
火災	11/13 想定：地震・火災想定
その他	5/29 想定：地震・河北地区幼・保・小・中学校合同引渡し
	8/28 想定：不審者対応
	10/3 想定：地震・原子力災害

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

（1）訓練の概要

① 事前指導等

- ・年度の最初に行われる地震想定避難訓練の後に、防災オリエンテーションとして、今年度の避難訓練について地震速報の使用の説明を行った。放送される音源に対して、不安を抱えている生徒がいないか確認をした。



<防災オリエンテーションの様子>

② 訓練の取組状況

今年度は全ての地震想定避難訓練において、緊急地震速報受信機を活用した。

- ・ 5 / 2 9 地震・河北地区合同引渡し訓練

学級担任以外の先生が授業をしている時に地震が起きた想定で訓練を実施した。

一次避難や避難経路などについて、職員間で確認をした。また、引渡しについては、二俣小学校区と大谷地小学校区とで時間を分けて実施した。



- ・ 9 / 1 3 予告なし避難訓練

予告なしの避難訓練を行った。地震速報の音源の使用を事前に生徒に告知し、不安を感じる生徒がいないか確認して、教職員で生徒のメンタルケアにも配慮するようにした。

- ・ 1 1 / 1 5 地震・火災想定訓練

河北消防署員の方に来ていただき、緊急地震速報受信機を使用して訓練実施した。火災発生時の対応や初期消火について助言していただき、煙道体験を行った。



③ 事後指導

- ・訓練後に全体講評や各教室の先生方の指導を実施した。その後、Google フォームや話し合いを通して訓練の取組の振り返りを行った。
- ・教職員に避難訓練の実施方法について振り返りしてもらい、成果や課題について振り返りを行った。その後、職員会議等で情報を共有した。



(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 緊急地震速報受信機の音源や地震疑似音、揺れ始めるまでの予測時間を流すことで、臨場感を出すことにより、避難訓練での緊張感が高まった。
- 生徒は緊急地震速報受信機の音源について、理解が深まっている。そのため、生徒はダンゴムシポーズや机の下に身を隠すなどの第一次避難行動を素早くとれる。
- 緊急地震速報受信機の操作について、一部の教職員しか扱えない現状があるため、避難訓練時の役割分担の工夫が必要である。

石巻市立蛇田小学校

所在地 石巻市蛇田字上中塚 9 7 番地 1

在籍数 7 3 5 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、石巻市の西部に位置し、三陸自動車道など幹線道路を複数有している。東日本大震災後、被災地域から移り住む住民が増加し、交通量の増加や地域の都市化がますます進んでいる。

学校周辺の道路は狭く、通常でも渋滞が発生しやすい。また、児童数が多いことや校舎の配置から、校舎内に十分な2次避難場所を確保したり、迅速に校舎外に移動したりすることが難しい。

東日本大震災では、学区の南側の北上運河沿いの地域が床上や床下に浸水した。学校に浸水はなく、校舎の窓ガラスが数箇所割れた。震災当日から同年10月まで避難所となり、最大700名以上が避難した。在籍児童の死亡、行方不明者はなかった。

近年の状況及び石巻市ハザードマップ等から次の点に注意している。

- ① 学区全体が低く平坦な地形である。3階建ての本校より高い建物が周囲に無く、近隣の向陽小学校までの道のりは約1kmで、地形分類上の旧河道や氾濫平野を横断する必要がある。
- ② 学校は氾濫平野上にあり、周辺も同様あるいは砂州・砂丘になっている。そのため、地震による液状化や建造物の倒壊等の可能性がある。
- ③ 令和4年5月10日付けの「宮城県津波浸水想定」を受けた石巻市教育委員会の資料で、本校の想定浸水深はこれまでの「0m」から「1～3m」となった。
- ④ 旧北上川堤防が決壊した場合、学校付近は1.6m程度の浸水が想定されている。本校は水防法又は土砂災害防止法に基づく市の防災計画において浸水想定区域の要配慮施設として位置付けられている。
- ⑤ 新下前沼地区や東前沼地区、新谷地前地区（JR仙石線南側）は、過去の集中豪雨で冠水したことがあり、今後も大雨の際には注意をしなければならない。

2 令和6年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/19（金）：授業時 地震・津波想定避難訓練（緊急地震速報受信機活用） 6/7（金）：休憩時 地震・津波想定避難訓練（緊急地震速報受信機活用） 11/2（土）：授業時 地域合同地震・津波想定避難訓練 （緊急地震速報受信機活用）
火災	6/26（水）：火災想定避難訓練
その他	6/13（木）：休憩時風水害（浸水）想定避難訓練 11/13（水）：休憩時原子力災害想定避難訓練



3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・業前活動の「防災タイム」を活用して、実施日時以外の訓練内容を伝えるとともに、適切な避難行動について指導した。
- ・安全な姿勢を取ることに加え、校庭・前庭では可能な範囲で壁面や遊具から離れること、校舎内では落ちたり倒れたりする物から離れることを指導するとともに、教室以外の様々な場所にいることを想定し、どのような危険性があるかを児童に考えさせた。

② 訓練の取組状況

- ・校内放送で緊急地震速報の訓練音を1分程度繰り返し流し、地震の発生を伝えた。
- ・児童はその場で避難行動を取った。
- ・休憩時避難訓練では、図書室や校庭などで過ごしていた児童も状況に応じて身を守ることができた。
- ・総合防災訓練では、児童は校舎3階、地域住民は校舎2階に避難した。



校舎3階に避難した児童の様子

③ 事後指導

- ・訓練終了後、各教室においてタブレット端末を使用した訓練の振り返りを行った。
- ・適切な避難行動が取れたかを確認するとともに、各所での行動について全体で共有したり、学校以外で緊急地震速報を聞いた際の避難行動について確認したりし、気づきや学びを基に振り返らせた。

地震が起こる前に鳴る音がよくわかりました。

そして、その緊急地震速報が鳴った時、素早く行動しなければならないとわかりました。

今日の訓練は大人の人がいけど、居ない時もあるからちゃんと話を聞いて行動しようと思いました。

児童の振り返り

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 適切な避難行動について改めて確認することができた。
- 教室以外の場所で地震が起きたらどのように行動したらよいか考えさせることができた。
- 地域の方と一緒に、避難場所となる教室を確認することができた。
- 緊急地震速報受信機の使用等方法について共通理解を図る職員研修を実施する。

石巻市立向陽小学校

所在地 石巻市向陽町四丁目 1 3 番 2 4 号

在籍数 3 2 6 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、石巻市の北西部に位置し、女川原子力発電所から半径 2 0 km のラインをまたぐように学区が広がり、U P Z 圏内（原子力施設からおおむね 3 0 km 圏内）で避難、屋内退避、安定ヨウ素剤の予防服用等を準備する区域に入る。

東に国道 4 5 号線、南西に国道 1 0 8 号線が走る。1 9 6 5 年に造成された通称「蛇田ニュータウン」と呼ばれる団地地域と、1 9 8 9 年より造成されたあけぼの地区が大きな住宅地となっている。



東日本大震災の被害が比較的少ない地域ということもあり、石巻赤十字病院周辺（わかば、あけぼの北）等に住宅着工が進んだ。一方で、学区の西部は農地が広がり、学区内全体で見れば豊かな自然も残る地域である。学区外より通学する児童は多い。

2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	5/21 想定：地震（業間休み実施） 11/ 2 想定：地震 津波（石巻市総合防災訓練）緊急地震速報を活用
火災	9/26、27、30 想定：火災（業前に防火扉通過訓練） 10/ 2 想定：火災
その他	5/ 2 想定：引渡し訓練 6/ 3 想定：洪水（業前 防災タイム） 7/ 1 想定：不審者侵入（児童対象） 10/ 29 想定：原子力災害（業前 防災タイム）

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・ 各学級で緊急地震速報のアラーム音と同時に一次避難行動に移り、安全を確保するよう指導した。
- ・ 防災教育副読本「未来へつなぐ」を活用し、教室外にいるときにも物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に避難することを確認した。低学年にはダンゴムシのポーズなどイメージしやすいような言葉で指導した。



低学年の児童がダンゴムシのポーズをする様子

② 訓練の取組状況

- ・ 緊急地震速報を流し、揺れが収束したという放送があるまで机の下で安全を確保させた。児童は揺れに備えて机の下にもぐり、机の脚を持つ姿勢をとった。
- ・ 揺れている間、担任は児童に安全確認をするよう指導した。
- ・ 総合防災訓練では、浸水のおそれがあるという想定のため、校庭への移動をせずに垂直避難で1階の児童が2階へと避難した。



垂直避難で2階へ避難する様子

③ 事後指導

- ・ 各学級で担任が緊急地震速報を活用した避難訓練の事後指導を行った。放送をよく聞くことができたか、放送を聞いてすぐに避難行動をとることができたかなど、全体で振り返りを行った。
- ・ 防災教育副読本「未来へつなぐ」を活用し、避難行動を振り返った。

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 訓練を重ねていることもあり、緊急地震速報のアラーム音への恐怖心をもたずに避難行動をすることができるようになってきた。
- 訓練に慣れてしまっている部分もあるので、訓練の内容に変化を加え、適度な緊張感をもたせるようにしたい。（アラーム音を2度鳴らすなど）

石巻市立飯野川小学校

所在地 石巻市相野谷字旧屋敷 5 6 番地

在籍数 1 3 6 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、東西 6 km、南北 3 km である。児童の 8 割は徒歩又は保護者送迎で通学している。また、2 割の児童はスクールバスを利用して通学している。2 0 1 1 年の東日本大震災では校舎に大きな被害はなかったが、学区の一部（本町・川前・五味・中野地区）は津波で床下浸水し、本校体育館に避難し宿泊した。

近年の状況及び石巻市ハザードマップ等から次の点に注意している。



- ① 本学区は標高 3 m の平地にある。北上川の堤防より低い場所に学校があるため、洪水による浸水の危険がある。予想浸水深 0. 5 m ～ 3 m。
- ② 校舎の裏は山（山麓堆積地形）になっており、集中豪雨に伴う土砂災害の危険がある。
- ③ 海からは 1 4. 8 km とかなり遠いが、大規模地震に伴う津波が北上川を遡れば、浸水の危険がある。

2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
避難経路確認 引渡し 地震・津波	4 / 1 5 (月) 想定：地震・津波（八幡神社までの避難経路を確認） 5 / 2 9 (水) 想定：河北地区幼・保・小・中学校合同引渡し訓練 5 / 3 0 (木) 想定：地震・津波（各教室→校庭→校舎 3 階に避難、幼稚園と合同で実施）
土砂災害 原子力 地震 J アラート 垂直	9 / 5 (木) 想定：土砂災害（河北総合支所内に避難） 1 0 / 2 (水) 想定：地震・原子力（各教室→体育館に避難） 1 1 / 2 (土) 想定：地震（石巻市総合防災訓練に合わせてシェイクアウト訓練実施） 1 2 / 5 (目) 想定：大規模災害・弾道ミサイル（J アラート対応） 1 / 2 4 (金) 想定：洪水（校舎 3 階に避難）
火災	1 1 / 2 0 (水) 想定：家庭科室から火災（消火体験実施）
その他	7 / 5 (金) 想定：不審者対応（防犯教室実施）

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要【原子力(地震)・授業時間・予告あり】

①事前指導等

- ・業前の防災学習では、防災教育副読本「未来へつなぐ」や県の公式動画チャンネル「原子力防災学習動画」などを活用して原子力災害の恐ろしさや発生時の対応（ハンカチで口を塞ぐ、窓を閉める等）について学習した。また、休日であれば避難場所が2か所（気仙沼・小泉公民館、登米・中田総合体育館）に分かれることになっているため、その確認を行った。



【訓練準備の様子】

②訓練の取組状況

- ・緊急地震速報音を聞いて、机の下に第1次避難した。その後、校庭に第2次避難し、女川原子力発電所で事故が発生したという想定で、体育館に第3次避難した。避難の際はハンカチで必ず口をおさえるように徹底した。また、学級担任以外は全ての教室の換気扇を止め、戸締りの確認を行った。



【第2次避難の様子】

③事後指導

- ・体育館に避難した後に全体会を行った。校長から避難訓練の様子について講評を行った。その後、学級ごとに事後指導を行った。



【第3次避難・講評の様子】

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 計画通り、スムーズに避難することができた。どの訓練もそうであるが、児童も危機感をもって取り組んでいた。
- 原子力災害が起きた際に必要な知識を事前に指導した。そのため、ハンカチで口を塞いだり、窓を閉めたりするなど、教師の指示がなくても自ら考えて行動する児童が多かった。
- ハンカチを携帯していない児童も数人見られた。持っていない児童もいたため、きちんと携帯しておくよう、日頃から声掛けが必要である。
- 教室の電気を消す、エアコンを消すなど、教員として当たり前のことだが、打合せ等で周知することも必要である。

石巻市立稲井小学校

所在地 石巻市真野字八の坪 1 1 6 番地 1

在籍数 2 8 7 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、東西約 1 0 km、南北約 7 km と広大で北側、東側、南側には山があり、西側は旧北上川に接している。また、学区の中央部には旧北上川の支流である真野川が流れている。学校は水田に囲まれており、集中豪雨時には周辺道路が冠水する心配がある。東日本大震災では、旧北上川沿いの地域に浸水の被害があった。



2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/19 想定：地震・津波（校庭に避難した後に校舎屋上に避難） 5/31 想定：稲井地区小・中合同引渡し訓練 6/ 4 想定：地震（業間時） 12/ 9 想定：地震・原子力（各教室で屋内避難） 2/20 想定：地震（告知なし）
火災	10/29 想定：火災（濃煙道体験実施）
その他	6/20 想定：不審者対応（警察官が不審者役） 7/11 想定：洪水（校舎 3 階に避難） 11/ 2 想定：石巻市総合防災訓練（各地区で訓練に参加）

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・業前活動の「防災の時間」に地震が起きた時にどうするか話をした。「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」安全な場所に避難することを確認した。また、地震発生時には緊急地震速報が鳴ること、放送や担任の先生の指示を静かに聞くこと、適切に行動することの重要性を確認した。
- ・「未来へつなぐ」（市防災教育副読本）を活用して、いろいろな災害時の避難の仕方について学習し、防災意識を高めた。



机の下に避難する様子



校庭に避難する様子

② 訓練の取組状況

- ・緊急地震速報の放送が流れたら、教師が指示を出し、「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」安全な場所に避難させた。
- ・緊急地震速報後に放送やハンドマイク、チャットで地震が発生したことを全校児童、全職員に知らせ、防災頭巾を着用させた。次の指示があるまで静かに待つようにさせた。
- ・教務や専科の教員、用務員は学校内の安全を確認し、トランシーバーで伝え、放送やハンドマイク、チャットなどで全校児童、全職員に伝えた。担任はその情報を基に避難をさせた。

③ 事後指導

- ・各教室で避難訓練の振り返りを行った。緊急地震速報が鳴った時の避難の仕方や休み時間に起きた場合はどうするか、登下校時に起きた場合はどうするかなど、学校以外での避難の仕方についても確認をした。



校舎屋上に避難する様子



濃煙道体験の様子



防災教育副読本を使っでの振り返り

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

○児童、教職員共に緊張感をもって訓練に取り組んでいた。

○校内放送だけでなく、Google チャットでも情報共有したことで、教職員は情報を聞き逃すことなく、落ち着いて避難させることができた。

○洪水想定避難訓練の前に教職員で稲井地区の過去の洪水被害を基にした研修を行った。稲井地区の災害の危険性を教職員が知り、訓練では教職員が声を掛け合い、積極的に取り組むことができた。

●避難指示より早く移動するクラスもあったので、ハンドマイクや放送での指示は、教職員が瞬時の判断が難しいことも踏まえて具体的に指示を出すようにする。

●原子力想定避難訓練の後に引渡し訓練を行うなど、訓練の内容を工夫していく必要がある。

●避難した場所が暑い、放送が聞きにくい、緊急地震速報の音がハウリングしているなど施設・設備面で不具合があったので改善していく。

石巻市立稲井中学校

所在地 石巻市真野字八の坪 1 1 6 番地

在籍数 1 4 9 人

1 学校の概要（学校防災面）

校舎は昭和 5 6 年 3 月完成で、東日本大震災でも倒壊せず、今後も倒壊等の危険性は低いと思われる。ただし、学校周辺全体が数cm沈下し続けており、震災後に盛土をして埋めた校舎下、体育館下のすきまが再度大きくなってきている。校舎のつなぎ目のずれも大きくなり、老朽化した体育館の天井等は破損や落下の可能性を否定できない。

なお、体育館は耐震性を増すための補強工事を実施してある。



2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	5/31 想定：午後 1 時 1 5 分（生徒は各教室で授業中）、宮城県沖を震源とする大規模地震（マグニチュード 9、震度 6 強）が発生した。教室内は電灯がいくつか上から落ちてきている。避難経路を確認したところ、大きな破損はなく、生徒を避難させることができる。校庭は、地盤沈下し液状化も見られるため体育館に避難させることにした。その後、校庭内の車の通行は可能と判断し、小学校と連携して引き渡しを行った。
その他	シェイクアウト訓練を年 6 回実施予定。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

各クラスの担任は以下の点を訓練当日の朝の会で生徒へ指導した。

- ・緊急地震速報は、地震の発生後、強く揺れる前に揺れが来ることを伝えるための情報であること。
- ・速報が発表されてから対象となる地域に揺れが来るまではわずかな時間（数秒～数十秒）しかないこと。

- ・地震の揺れから身を守るには、その場所や状況に合わせて慌てずに行動する必要があること。
- ・慌てずに身を守る行動を起こすためには、その場その時に合わせてどのような行動を取るべきか想定しておくこと。

② 訓練の取組状況

- ・生徒、教員は地震速報を聞くとすぐに一次避難として机の下に身を隠すことができた。
- ・次の指示が出されるまで、生徒たちは静かに待機することができていた。
- ・教員が生徒の避難と点呼をスムーズに行うことができていた。
- ・避難する際には、静かに素早く避難先に移動することができた。



2年生：机の下に隠れる様子

③ 事後指導

- ・生徒の代表として執行部生徒が感想を発表した。
- ・帰りの会では、副読本を活用しながら振り返りを行った。



2年生：机の下に隠れる様子

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 緊急地震速報の作動時に自分の身を守れるよう行動する意識が身に付いた。
- 教職員が瞬時に一次避難の指示をできるようになった。
- 受信機を作動させるための研修会を実施し、教職員なら誰でも活用できる状態にしたい。

石巻市立河南東中学校

所在地 石巻市須江字糠塚 3 番地 3

在籍数 3 2 2 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、石巻市の北西部に位置し、東西約 1 0 km 南北約 1 5 km の広さで、女川原発から 3 0 km 内の U P Z に当たる地域である。生徒の 9 割以上が自転車通学であるが、送迎による通学者が年々増加傾向にある。校舎は丘陵にあり、学区内には旧北上川が流れ、広大な田畑地帯が広がる低湿地帯である。東日本大震災時は校地内に大きな被害はなかった。



2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	5/10 想定：震度 6 弱、マグニチュード 7.0 以上、津波警報
火災	11/11 想定：第 2 理科室より出火
その他	11/2 石巻市総合防災訓練 想定：第 1 ステージ（震度 6 強、マグニチュード 9.1） 第 2 ステージ（各地区別防災訓練、中学校では自衛隊講話）
原子力 災害	12/2 想定：女川原子力発電所の異常による「警戒事態」の発表
不審者 対応	1/20 想定：保護者を装った不審者の侵入

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・ 石巻市防災教育副読本を用いた授業
- ・ 授業中、休み時間、部活動等の活動中に地震が起きた場合の避難方法の指導

② 訓練の取組状況

- ・ 緊急地震速報受信機の機能に「津波」の警報も含まれているので、巨大地震発生時には、津波襲来の可能性も考慮することが習慣になってきている。
- ・ 引渡しの状態を素早くとり、確実に引受者に引渡すことができた。



一次避難



引渡し訓練（全体指導）

- ・ 今年度は訓練の計画を見直し、「緊急放送を聞く訓練」は実施しなかった。
- ・ 地震想定避難訓練は建物の損壊を想定せず、一次避難からすぐに引渡し訓練に移行した。東日本大震災の時も校舎の損壊がなく、倒壊のおそれなかったため、校庭へ逃げる二次避難は行わなかった。
- ・ 引渡し訓練は、学区内のこども園、保育所、小学校と合同で実施できた。
- ・ 学校運営協議会員の方々に参観していただき訓練の評価をいただくことができた。

③ 事後指導

- ・ Google フォームを用いて生徒の振り返りを行った。
- ・ 第三者評価を共有し、今後の訓練に生かすようにしている。
- ・ 社会科、英語科等の教科指導においても、災害安全の指導を継続しており、訓練の成果が生かされている。
- ・ 11月に行われた、市総合防災訓練において各地区の訓練に生徒が参加し、在宅時に発災した場合の対処についても学習した。



引渡しの様子



市総合防災訓練（地域別訓練）



市総合防災訓練（地域別訓練）

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 緊急地震速報受信機による警報音や揺れの効果音が、生徒にとっては災害のリアリティを感じられる効果がある。小学校から継続して訓練を行っている影響もあるかもしれないが、地鳴りや少しの揺れが実際に起きた時には素早く机の下にもぐるなどの安全確保行動ができている。
- 地震想定避難訓練実施後の避難訓練において、生徒の避難行動が素早く行われるようになってきている。
- 他の学習指導の時数との関係で、緊急地震速報受信機を活用する回数が減ったが、今後は休み時間の利用などの工夫をし、避難訓練の回数を増やしたい。
- 教師側の動きは、さらに的確に生徒の安全確保が指示できるように研修をする必要がある。

石巻市立山下小学校

所在地 石巻市山下町一丁目１０番１０号

在籍数 １６５人

１ 学校の概要（学校防災面）

学区は、東西約１．５km、南北約１．５km。学区外から通学している児童は、保護者による送迎。学校から最も遠い地区までは、通常時に自動車で５分程度かかる。明神山地区は同じ丘陵地にあるが、山下町一丁目、二丁目の一部を除く他地区は平地に位置している。

校舎は、現校舎は昭和５９年完成で倒壊等の危険性は低い。東日本大震災後、平成２４年に体育館の耐震工事が完了した。また、平成２５年に校舎・体育館の災害復旧工事、平成２７年から老朽化対策工事が行われた。

校地は、丘陵地にあるため、津波や洪水の危険性は事実上ない。本校は、石巻市地震防災マップで木造建物全壊率危険度１の場所と示されており、液状化による地割れなどの被害は低いとされているが、校庭西側のフェンス外の下へ続く崖が崩れる危険性はある。



２ 令和６年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/16 想定：宮城県沖マグニチュード７．５と推定され震度は５強以上地震沈静後さらに余震の恐れあり、全員避難の必要があり、校庭に避難をする。 年度始め経路確認避難訓練⇒教職員と児童で避難経路を確認する。 6/14 想定：宮城県沖を震源とする震度５強の地震が発生。強い揺れが３０秒続く。（校舎倒壊のおそれなし、津波の心配なし） 清掃時のショート避難訓練⇒放送を聞き、安全な場所で一次避難。 10/29 想定：宮城県沖を震源とする震度５強の地震が発生。強い揺れが３０秒続く。（校舎倒壊のおそれなし、津波の心配なし） 昼休みのショート避難訓練⇒放送を聞き、安全な場所で一次避難。 1/21 想定：宮城県沖を震源とする震度５強の地震が発生。強い揺れが３０秒続く。（校舎倒壊のおそれなし、津波の心配なし） 業前時のショート避難訓練⇒放送を聞き、安全な場所で一次避難。
火災	11/20 想定：理科室から出火。強風のため火の勢いが強く、煙に巻かれるおそれあり。全員避難の必要あり。 火災想定避難訓練⇒活動場所から校庭への避難誘導訓練。
その他	6/7 想定：震度６弱の地震により通常下校は危険と判断。保護者への引渡しを行う。⇒保護者に確実に引き渡す。保護者との共通理解。 6/26 想定：不審者が校舎内に侵入。 不審者想定対応確認⇒侵入時の行動と対応の確認。校内放送の内容の共通理解。 10/15 想定：女川原子力発電所で原子力事故が発生。校長判断により校舎内待機を行う。 原子力事故想定業前活動中のショート避難訓練⇒一次避難し待機 11/2 想定：８時３０分、震度６弱の地震が発生。自宅で石巻総合防災訓練（家庭でシェイクアウト訓練）に参加した後、登校。縦割り活動での地震想定避難訓練を行う。その後、各学年部ごとに防災学習を行い、集団下校訓練を行う。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・職員室の職員と防災担当で操作法を確認する。
- ・職員会議で受信機と音源を活用した訓練について、教職員間で共通理解する。
- ・学級ごとに発達段階に応じた指導を行う。

② 訓練の取組状況

- ・授業中の他、業前の活動時や業間、昼休みに受信機の音源が流した。
- ・児童は速やかに安全な場所で一次避難を行った。
- ・休み時間の訓練の場合、児童は教室や校庭等、それぞれの場所に応じて身を守る動きをした。机の下でのおさるのポーズや、広い場所でのダンゴムシのポーズにより、安全性を高めた。
- ・担任は、避難経路確保のため教室の出入り口を開けると共に児童の避難の様子を見取りながら自分も身を守る行動を行った。

③ 事後指導

- ・通年活用している振り返りカードに各自記入し自己の振り返りを行った。その後、学級で話し合い、避難の仕方や注意点について確認した。
- ・緊急地震速報受信機の音声と、放送による指示をよく聞くことを再度確認した。



一次避難中の児童の様子（教室）



一次避難中の児童の様子（校庭）



振り返りの様子

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

○昨年度から緊急地震速報受信機を導入し、今年度は訓練音源を4回活用した。年度始めは説明書を見ながらの訓練であったが、回数を重ねるごとに操作に慣れ、訓練に取り組みやすくなった。

○受信機のプログラムタイマー機能を活用することで、担当職員は職員室を離れて児童の避難の様子を観察したり、記録写真を撮ったりすることができた。

●防災担当など、一部の職員が操作することが多く、その他の職員は受信機を操作する機会が少ないので、操作する機会を設け、扱いに慣れておく必要がある。

●受信機の機能の一部しか活用していないので、受信機に備わっている機能や設定を理解し、地震の震度や到達秒数、アナウンスなどの設定を毎回変えるなどして、より有効な訓練が実施できるようにしていきたい。

●放送機器に課題がある。通常時の校内放送と緊急時の全校一斉放送の切替えが職員室でできず、毎回放送室に行き、放送機器の設定を切り替えてから受信機を使用している。

石巻市立蛇田中学校

所在地 石巻市茜平五丁目3番地1

在籍数 572人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、平地にあり田んぼを整地して建設された。崖などもなく土砂災害の危険はない。校地の標高は1.6mである。現在は仮設校舎。

通学路のうち、新東前沼、新下前沼の水路沿いが豪雨時に冠水することがある。向陽町・あけぼの地区は、泥地の地盤で震災時液状化現象が発生した。

女川原子力発電所30km圏内(UPZ)の立地である。



2 令和6年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	6/3 ・想定：地震（震度6強）・津波、授業中 一次避難：各教室 二次避難：体育館 三次避難：校舎3・4階 9/19 ・想定：地震（震度6強）、休み時間 一次避難：各自、安全行動 二次避難：教室 11/21 ・想定：地震（震度6強）・津波・原子力、授業中 一次避難：各教室 二次避難：体育館 三次避難：校舎2・3階 原子力避難行動：教室で原子力災害の学習、窓の目張り
火災	11/14 ・想定：体育館、授業中 校庭へ避難、初期消火訓練、濃煙体験
その他	4/9 ・避難経路の確認 7/11 ・避難訓練(洪水) 想定：浸水 休み時間 11/2 ・石巻市総合防災訓練 シェイクアウト訓練 各行政区の避難場所の確認

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・市の防災教育副読本を活用し、避難訓練の意義や避難の仕方について指導した。
- ・「防災の日」（年間10回、業前、全校一斉）を活用し、様々な種類の災害や、様々な場面でのより安全な避難の仕方について指導している。



【「防災の日」の指導の様子(1年生)】

② 訓練の取組状況

- ・ 緊急地震速報受信機を活用し、地震発生直前から素早く避難行動ができるようにした。
- ・ 校内の放送機器が使えない設定で訓練を行い、トランシーバーを活用した情報共有、指示伝達を訓練した。
- ・ 原子力避難訓練では、原子力災害について放射線の危険を学び、教室の窓の目張りや窓側から離れた避難を行った。



【緊急地震速報を使った訓練の様子】

③ 事後指導

- ・ 訓練実施後、振り返り用紙を記入し、自分の避難行動を振り返り、良かった点や改善点を確認し、今後に生かした。
- ・ 教職員の反省を生かし、避難訓練の内容や設定が毎回同じにならないように改善した。
- ・ 美化防災委員会の話合いの中でも、避難訓練の振り返りを行い、避難行動の成果と課題をクラスに伝えることで防災意識の向上を図った。



【教室の窓の目張りの様子】

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 緊急地震速報受信機を活用し、一次避難を開始したが、生徒は落ち着いて、素早く行動できていた。
- 職員間で、被害の状況確認のため、しっかりと情報共有を行う予定だったが、放送機器が使えない設定のため、トランシーバーを情報伝達機器として有効に活用した。放送機器が使えなかったが、トランシーバーを活用することで、生徒への避難指示を出すための情報共有を円滑に行うことができた訓練となった。
- 今後は、管理職が不在等のどんな状況でも変わらず避難行動が行えるように、職員の役割分担を変えながら訓練をしていきたい。また、避難経路についても、様々な状況を設定し、複数の経路での訓練を行っていきたい。
- 生徒の私語が少し見られた。もう一度、訓練の意義を確認し、防災意識を高めさせることが大切だと思った。普段の校内放送を聞く姿勢や、防災の話題を朝の会や学活などの時間に話すなど、日頃の取組が大事だと感じた。
- 緊急地震速報の音が苦手な生徒もいるので、配慮が必要なことを感じた。

石巻市立河南西中学校

所在地 石巻市北村字小崎一 3 7 番地 2

在籍数 1 9 0 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、広瀬小学校区・北村小学校区・前谷地小学校区の 3 校区から成り立っている。前谷地・広瀬地区は水田地帯が広がっており、近くには旧北上川もあり大雨の際は洪水の危険性がある。また、北村小学校区は林野に覆われているため大雨時には土砂災害の危険性が高まる。本校の敷地は海拔 3 0 m の位置にあるため浸水の危険性は極めて低い環境にある。加えて切り土による台地になっているので、土砂災害の危険性も低い。



2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等		
地震 津波	5/2	想定	石巻市内で震度 6 弱の揺れを観測、宮城・福島県沖を震源とする M7.3 の地震発生。（小中連携引渡し訓練）
	6/21	想定	宮城県沖で規模の大きな地震が発生、大津波警報が発表。
	10/2	想定	石巻市内で震度 5 弱の揺れを観測する、宮城・福島県沖を震源とする M7.3 の地震発生（緊急地震速報受信機初使用 昼休みショート避難）。
火災	4/22	想定	第二理科室で実験中に火災発生
その他 （原子力 災害）	12/2	想定	宮城県沖で地震が発生し、震度 6 強を観測。女川原発内の外部電源喪失や機器故障発生。炉心損傷により放射能物質が放出された想定（津波発生なし、緊急地震速報受信機使用）

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

職員間で操作方法や機能及び新しい音源の耳慣れを促しながら、共通理解を図った。同時に生徒に対し受信機の設置からいつ起こるかも分からない災害に対し、実際の状況を想起することで、より緊張感を持ちながら訓練に臨む旨を伝えた。



事前指導の様子



職員への操作説明の様子

② 訓練の取組状況

- ・緊急地震速報受信機の音源は明瞭であり、効果音が完全に生徒に馴染んでないことも相まって、昨年度の設置から毎回緊張感を持って取り組むことができている。機敏に動いているので継続させたい。



原子力災害避難訓練の様子

③ 事後指導

- ・過去の大きな地震や直近の地震による被災状況、季節柄に関する自然災害や二次被害、原子力の災害想定などを説明した。防災副読本のみならず、各教科で取り扱える内容等、より詳しい説明を動画で閲覧させた。

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 生徒は担任の事前・事後指導を真剣に聞き、自分のこととして捉える様子が見られた。
- 受信機は設定震度4以下で校舎内、震度5以上で校舎外に音声を流すことができることから、受信機を活用し、今後もいろいろな時間に実施したい。
- 生徒の年齢から、東日本大震災の当時の映像を小出しして視聴させた方がより一層の緊迫感を得ながら、訓練につながるのではないかと感じた。
- 予告なし訓練のため私語が多かった。災害においては、常に緊張感を持たせられるよう日頃からの声掛けや訓練を大切にする。
- 実際に災害が起きた場合を想定し、避難しやすい環境づくり（窓ガラスであれば飛散防止シートを貼る）など備えが必要であることを再確認した。

石巻市立須江小学校

所在地 石巻市須江字代官 4 3 番地

在籍数 2 1 5 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区のほとんどは山地であるが、山根地区・中
 埜地区などの一部は平野・低地（湿地）に囲まれ
 ている。校舎は山地に造成された高台にあり、校
 地の標高は13.5mである。

宮城県北部地震や東日本大震災などでは大きな
 被害はなく、体育館に避難所を開設した。学校周
 辺は斜面が多く、一定雨量を超えたり、地震が発
 生したりするなどでも土砂災害発生のおそれがあ
 る。女川原子力発電所30km圏内の立地である。



2 令和6年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	5/10 想定：地震（震度7）、津波【授業中】 地震発生（第一次避難・第二次避難）→津波警報が発表（第三 次避難）→警報解除→引渡し（東中学区合同引き渡し訓練） 7/3 想定：地震（震度7）、原子力【休憩中】 地震発生（第一次避難・第二次避難）→原子力事故発生→屋内 避難→窓・カーテン・空き教室等の施錠→放送による全体への 事後指導 2/20 想定：地震（震度7）【休憩中】※受信機使用 事前指導（放送の音に慣れる）→緊急地震速報受信機で速報受 信→自分の机の下に避難→事後指導
火災	11/12 想定：理科室出火【授業中】…消防署員来校 火災発生→校庭避難→代表児童による消火訓練→事後指導 11/21 想定：職員室出火【昼休み/告知なし】 火災発生→校庭避難→事後指導
その他	6/20 想定：不審者が校内に侵入【業前】 校舎1階から侵入→教職員が対応→校内放送で各教室バリケ ードを作る→事後指導 11/2 想定：地震【石巻市総合防災訓練/告知無し】※受信機使用 地震発生（第一次避難まで）→事後指導→防災学習

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・ 前年度から避難訓練の際には、緊急地震速報の音源を流しながら訓練していたため、音を聞いて避難した。
- ・ 年10回の防災の時間（業前活動）を活用し、学年に応じた避難の仕方を指導した。
- ・ 音に敏感な児童もいるため、事前に各教室で音源を流し、あらかじめ訓練の日だけを知らせる。

② 訓練の取組状況

- ・ 登校後、地震が発生したため、机の下にもぐり、身を守る行動をとった。
- ・ 石巻市総合防災訓練において、小学校での防災学習で登校した児童のみの参加となった。

③ 事後指導

- ・ 教職員から避難経路の確認や、異なった状況ではどんな行動をするべきか反省を行い、様々な状況で避難訓練を行った。
- ・ 教室にいない可能性、戻れない可能性を考えて、その場の状況を自分で判断して身を守る行動をとれるようにした。



【5月10日避難訓練の様子】



【11月2日 避難の様子】



【特別教室での避難の様子】

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

○職員の意識が高まり、避難経路について考えることが多くなった。また、「業前の時間だったら」「登下校中だったら」「担任が不在だったら」など、職員の中からも様々な状況を想定した声が上がった。

○音を流しながらの訓練は、以前も行っていたが、地鳴りの音が聞こえてきたため児童より緊張感をもって参加していた。

○設定が簡単であり、短い時間での訓練も可能のため、今後、様々な場面を想定した訓練が可能である。

●全校児童・全職員が緊急地震速報受信機を使用した訓練に参加できていないため、2月にショート訓練を計画する。

●管理職不在時、受信後の停電、余震など様々な状況を考え、来年度以降の訓練に反映させていく必要がある。

石巻市立前谷地小学校

所在地 石巻市前谷地字沖埜 1 2 5 番地

在籍数 1 2 3 人

1 学校の概要（学校防災面）

本校は、石巻市の北西部に位置し、小学校周辺に平坦な土地が広がる水田地帯である。

学区は、5地区に分かれ、学区のほとんどが後背低地であり、西部、東部、南部に山地がある。近くを江合川、旧北上川が流れていることから、市のハザードマップでは、大雨や台風の際に洪水の被害が予想されている。また、女川原子力発電所から30km圏内にあり、再稼働後に事故が発生すれば被害が及ぶことが予想される。さらに、令和元年の東日本台風の際に、学区内で土砂崩れが起こっているため、土砂災害による被害も予想される。

東日本大震災では、内陸部にあることから津波は到達せず、人命、建物ともに大きな被害は無かったが、浸水地域から200名以上が体育館へ避難してきた。



2 令和6年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	5/22 想定：東日本沖の大地震 ・津波の影響による川の氾濫の可能性あり 一時避難：各教室 二次避難：校庭 三次避難：3階ホール その後：引渡し訓練に移行（西中地区合同訓練） 7/2 緊急地震速報の音の確認（未設置のため9/30に延期） 12/6 想定：地震（震度5） ・授業中 一時避難：教室 3/4 想定：地震（震度5） ・昼休み 予告なし 一時避難：教室、校庭等
火災	11/19 想定：理科室 ・授業中 校庭へ避難 消防署への通報訓練 火災に関する視聴覚教材鑑賞
その他	4/10 避難経路確認 6/13 竜巻想定避難訓練 想定：全校児童が校庭での活動中 校舎内1階ホールに避難 7/16 大雨・洪水想定避難訓練 想定：大雨警報、江合川氾濫警戒情報発表 ・業前 3階垂直避難 8/21 不審者対応訓練（職員） 9/3 不審者対応訓練（児童） 11/2 石巻市総合防災訓練 ・自宅でシェイクアウト訓練後、登校 1/10 原子力想定避難訓練 想定：女川原子力発電所の事故 ・業間 各教室へ避難

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・ 業前活動の「防災タイム」などを利用して、訓練内容や災害対応を伝えるとともに、適切な避難行動について指導した。
- ・ シェイクアウト訓練時に活用している安全姿勢の掲示物を常に各教室に掲示し、いつでもどんなときでも避難行動が取れるように防災意識を高めている。
- ・ 防災教育副読本を活用し、地震災害や避難行動などを確認した。



【シェイクアウト訓練教室掲示物】

② 訓練の取組状況

- ・ 初めての緊急地震速報受信機を使った訓練では、事前に一度、緊急地震速報受信機から鳴る音を聞かせ、確認をした。
- ・ その後、訓練音を流し、地震の発生を伝えた。
- ・ 児童は、各教室でヘルメットを被ったり、机の下に入って頭部を守ったりなどの避難行動を取った。



【一時避難時の児童の様子】

③ 事後指導

- ・ 訓練終了後、各教室において担任による事後指導を行った。
- ・ 事後にも防災教育副読本を活用し、地震が起きたときの対応等を振り返った。
- ・ 授業中だけでなく、休み時間や学校外での避難行動についても確認をした。

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 児童、職員共に、適切な避難行動について確認することができた。
- 児童は、どの場所においても避難行動が取れるように考えることができた。
- 職員間で緊急地震速報受信機の使用方法等について共通理解を図っていく必要がある。
- 児童には、事前に訓練と知らせたからの活動が多かったので、いつ、どんなときでも避難行動が取れるように指導や訓練を継続していくことが必要である。

石巻市立桃生小学校

所在地 石巻市桃生町榎崎字高附 5 番地

在籍数 58 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、石巻市の北部の内陸部にある。東日本大震災では、海からの距離は 1.7 km であり、津波の被害は受けることがなかった。旧北上川・新北上川から約 3 km と 2 つの河川に挟まれる位置に学区があり、多くの水田が広がっている。両川から取水・排水する用水路が学区内を通っており、両川が大雨・台風等で氾濫した場合、多くの地域で浸水のおそれがある。校庭は浸水のおそれがあるが、校舎は標高 4.5 m と高台にあり、河川の氾濫が起きた場合、校舎 2・3 階を避難場所としている。



2 令和 6 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震	5/ 2 想定：授業中（5 校時）に震度 5 強の地震が発生。各教室で机の下等で第一次避難。その後、校舎内の安全確認、教室待機の第二次避難とする。さらなる余震も想定されるため、保護者引渡しを行う。 10/28 想定：業間時間中に震度 5 強の地震が発生。児童はそれぞれの場所で第一次避難の行動をとる。教室外の児童を検索し、校舎内・校庭にいる教職員の引率で教室へ第二次避難をし、安全確認をする。 11/ 2 石巻市総合防災訓練に参加。シェイクアウト訓練の後、居住地に応じて、小学校を含む各地域の避難場所へ集合し、訓練に参加。 11/21 想定：朝 8：00、宮城県沖を震源とする震度 5 強の地震が発生。その場で避難行動をとり、揺れが収まった後、被害がないことを確認できるが、業前活動時に、屋内退避の指示が出される。それを受けて、各教室で、屋内退避の訓練を行う。
火災	11/6 想定：1 階資料室より出火。延焼のおそれがあるため、校庭へ避難する。校内放送は使用不可の想定で実施。
その他 (不審者)	4/11 避難経路確認 6/28 想定：授業中（2 校時）に 2 階職員玄関から不審者が侵入。3 階へ移動したことが判明し、職員で対応し、校長室へ誘導する。児童は、各教室入口にバリケードを作り、窓側に避難する。
(洪水)	9/ 2 想定：清掃中、大雨による北上川の氾濫が発生し、学区内への浸水が予想されるため、幼稚園と共に、校舎 2 階へ一次避難をする。さらなる被害が予想される状況となったために、校舎 3 階へ二次避難をする。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要【地震】

① 事前指導等

- ・ 日時を予告し、訓練内容の説明と共に、緊急地震速報の音源を聞く体験をする。
- ・ 業前の「防災の時間」に、休み時間等、教室外にいるとき、その時に一人でいた時等、場面を確認しながら、どのような避難行動をとるか各クラスで指導する。



ヘルメットをかぶって机にもぐる

② 訓練の取組状況

- ・ 第一次避難の際は、揺れが始まる前のリードタイム（※今回は20秒に設定）で、ヘルメットをかぶり机の下へもぐる、すぐ机の下にもぐる、遊具から離れ校庭中心部に移動する等、その場に応じた避難行動をとっていた。
- ・ 教室集合の第二次避難に向けて、廊下やトイレを検索する教職員の声掛けや、校庭から教室へ引率する教職員の指示に従って速やかに教室に移動した。
- ・ 各教室の児童の避難状況を確認する担当へ、各担任からスムーズに伝達ができ、本部での集約までが迅速にできた。



職員の引率で校庭から教室へ避難

③ 事後指導

- ・ 訓練後の振り返りでは、自分の身の安全を守るためにリードタイムで何ができるかが、訓練を体験したことで、児童から具体的な意見が出された。
- ・ 4校時目に児童への告知なく、当日のうちにもう一度訓練を行った。どう行動すればよいか考えて、迅速に避難できた。



予告なしでも迅速に避難できた

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 地震到達までの時間を任意に設定できるので、児童が揺れ始めまでに何ができるかを考え、適応できるようになった。
- 音源を用いて放送で行っていた場合に比べ、発生時刻等の計画に沿って忠実に行うことができた。
- 装置の扱いができれば、1日2回の訓練も容易に対応できる。
- 今回の想定以外で、機器を活用した有効な訓練を検討する。
- 統合を控えており、児童数が増えた場合の訓練の内容を検討する。